



一般財団法人 比較統合医療学会 第65回学術大会

未来の pandemic に備えて
～あらゆる医療の統合的検証～

令和4年8月27日(土)・28日(日)

北海道・ロイトン札幌

一般財団法人 比較統合医療学会

第65回学術大会

未来の pandemic に備えて

～あらゆる医療の統合的検証～

令和4年8月27日(土)・28日(日)

北海道・ロイトン札幌

一般財団法人 比較統合医療学会

未来の pandemic に備えて

大会長 鳥巢至道

酪農学園大学教授
一般財団法人比較統合医療学会 共同代表理事

世界中にコロナウイルスが蔓延して3年が経ちました。一時期はコロナ禍も落ち着いたと思いましたが、7月中旬には第7波として急激な増加をしています。今回の本大会は、感染対策はしっかり行った上で対面を中心としたハイブリッド開催となります。

本大会は“未来の pandemic に備えて～あらゆる医療の統合的検証～”というテーマにしました。まずは、今回のコロナ禍で我々獣医師を含む医療関係者がどのように対策を講じてきたのか、そして次に来るかもしれない新たなパンデミックの脅威に対してどのような対策と知識を備えていなければならないのか？をテーマに非常に多くの著名な先生方に講演をしていただきます。

本学会は1993年に獣医東洋医学研究会として発足し、2016年に比較統合医療学会と名称を変えて時代の流れとともに進化してきました。多くの獣医師も含む医療関係者が大学で学んでいるのが西洋医学であり、西洋医学以外の医学は独学で学ぶしかありません。本学会は、設立以来29年間にわたり鍼灸や漢方、ホメオパシーやオゾン療法など大学では学べない様々な医療に関して真剣に取り組んでまいりました。そして医学や歯学そして獣医学の垣根のない One Health の概念に基づいた統合医療を実践している先生方の発表の場として本学会は進化を続けています。皆さんの知らない世界を覗いてみませんか？

目 次

▶大会長あいさつ

- 「未来の pandemic に備えて」 3
鳥巢至道（一般財団法人比較統合医療学会 共同代表理事、酪農学園大学教授）

8月27日 土曜日

▶講演

座長：安川明男（東京医科大学）

- 「獣医大学の現場で感じた Pandemic とその対応策」 8
鳥巢至道（酪農学園大学）

座長：龍見 昇（NOVO クリニック）

- 「雲南紅豆杉の材抽出成分による抗がん作用」..... 10
赤尾幸博（岐阜大学）

座長：鳥巢至道（酪農学園大学）

- 「次なるパンデミックのための人獣共通感染症の理解」..... 12
岡林環樹（宮崎大学）

▶招聘講演

座長：澤村めぐみ（東千葉動物医療センター）

- 「「腸管」と「皮膚」と「口腔」をターゲットにした犬アトピー性皮膚炎（cAD）に対する
マルチモーダルアプローチ」 14
川野浩志（東京動物アレルギーセンター、藤田医科大学医学部 消化器内科学講座）

▶一般演題

座長：鷺巣 誠（元岐阜大学）

- 1 「玄米・米糠発酵食品による抗炎症作用、発がん抑制作用」 18
水野知光（株式会社玄米酵素）

- 2 「水素・酸素混合ガス吸入を併用し治療を試みた犬の疾患（5 症例）に関する考察」..... 19
中下輝一郎（HYDRECH 株式会社）

- 3 「COVID-19 に対する統合医療の効果」 21
山口貴也（山口醫院）

座長：山口愛子（山口醫院）

- 4 「プラセンタエキ스가イヌの運動機能に及ぼす影響について」 23
田原健太郎（株式会社日本生物製剤）

- 5 「アクアフォトミクスによる臨床試験」 24
ストイロフ アレクサンダー ボイコフ（ゆの里アクアフォトミクスラボ）

座長：中下慎一郎（HYDRECH ㈱）

- 6 「PLs（プラズマローゲン）含有複合サプリメントを用いた老犬の痴呆症治療に関する臨床的検討」..... 26
飯田重寿（㈱スーパーライトウォーター）

- 7 「鼻腔内悪性黒色腫に漢方薬とオゾン療法を施した犬の 1 例」 28
橋本真里奈（東千葉動物医療センター）

8月28日 日曜日

▶ 招聘講演

座長：岡林環樹（宮崎大学）

- 「比較統合医療におけるプレ・プロバイオティクスの可能性」…………… 30
栃尾 巧（藤田医科大学医学部医科プレプロバイオティクス講座）

▶ 講演

座長：平岡亮子（REX 統合医療倶楽部）

- 「ワクチンの副作用を含めた COVID-19 と、これから起こる可能性があるパンデミックに対する
個人的見解と対策」…………… 32
龍見 昇（NOVO クリニック）

座長：山口貴也（山口醫院）

- 「コロナワクチン後遺症の治療について」…………… 34
中村篤史（ナカムラクリニック）

▶ 一般演題

座長：高橋 薫（羊ヶ丘動物病院）

- 8「薬物に頼らない犬と猫の歯周病予防」…………… 36
川野浩志（藤田医科大学医学部消化器内科学講座）

- 9「鍼治療を行った四肢麻痺を呈する頸部椎間板ヘルニア Grade III 5 例および多発性椎間板ヘルニア 1 例」… 37
藤田聡子（さとこ犬猫クリニック）

- 10「露地栽培アガリクス KA21 のシニア期のイヌ、ネコに対する健康増進作用（中間報告）」…………… 38
北原淳子（東栄新薬株式会社）

座長：宇都義浩（徳島大学）

- 11「漢方による治療が奏効した関節炎の 1 症例」…………… 39
田中大介（牛久保東ペットクリニック）

- 12「犬の周術期における酸化ストレスの評価」…………… 40
直井康介（酪農学園大学伴侶外科学ユニット）

- 13「MetAGin™（アメリカ人参複合乳酸菌発酵エキス末）の筋萎縮抑制効果」…………… 41
田坂 徹（株式会社皇漢薬品研究所）

座長：平岡亮子（REX 統合医療倶楽部）

- 14「歯科における未来の Pandemic 対策」…………… 42
高橋浩司（おびひろ清流歯科クリニック）

- 15「モーズペーストにより腫瘍の局所コントロールができた犬の 1 例」…………… 43
酒井俊和（酪農学園大学）

- 16「手術創ドレッシングにおける竹繊維ガーゼの有用性」…………… 44
山本集士（酪農学園大学）

- ▶ 協賛企業一覧…………… 46

08/27[±]
sat (1日目)

講演

- 座長：安川明男（東京医科大学）
12:30 ~ 13:00 「獣医大学の現場で感じた Pandemic とその対応策」
鳥巢至道（酪農学園大学）
- 座長：龍見 昇（NOVO クリニック）
13:10 ~ 14:10 「雲南紅豆杉の材抽出成分による抗がん作用」
赤尾幸博（岐阜大学）
- 座長：鳥巢至道（酪農学園大学）
14:10 ~ 15:10 「次なるパンデミックのための人獣共通感染症の理解」
岡林環樹（宮崎大学）

招聘講演

- 座長：澤村めぐみ（東千葉動物医療センター）
16:00 ~ 17:00 「「腸管」と「皮膚」と「口腔」をターゲットにした犬アトピー性皮膚炎（cAD）に対する
マルチモーダルアプローチ」
川野浩志（東京動物アレルギーセンター、藤田医科大学医学部 消化器内科学講座）

獣医大学の現場で感じたPandemicとその対応策

The countermeasures of veterinary university education and hospital - the first year into the COVID pandemic

鳥巢至道

Shidow Torisu

酪農学園大学 獣医学類

Rakuno Gakuen University school of Veterinary medicine

2019年12月に中国武漢で報告された原因不明の肺炎から検出された新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中の人々の日常を脅かすことになった。そして年が明けて2020年の2月には横浜に停留しているダイヤモンドプリンセス号内で新型コロナウイルスが蔓延した。この時が日本人が身近に新型コロナウイルスに対して危機感を覚えた時でもあり、獣医療関係者がこの新型コロナウイルスに感染したというニュースもこの時に流れてきた。当時、私は前職の宮崎大学で動物病院長を任されており、動物病院での診療体制やスタッフの健康管理について早急な対策をとる必要性に迫られていた。

この当時の宮崎県の新型コロナの感染者数は5人未満であり、まだまだ爆発的な増加はしていない時期であったが、どのような感染対策をする必要があるのか？を早急に会議しどんと意思決定を行っていく必要があった。

私が勤務していた宮崎大学では、私が勤務してから12年の間で4回の大きな感染症と災害を経験している。最初は、2010年の口蹄疫である。口蹄疫は、ヒトには感染しないが牛や豚などの偶蹄類に感染する法定伝染病であり、猛烈な感染爆発によりみるみる宮崎県の家畜をむしばんでいき、人口より家畜の飼育頭数のほうが多い地区では、賢明な感染症予防対策が行われたにもかかわらず見えないウイルスの脅威に飲み込まれていった。この当時は獣医師の資格をもつ教員の多くが防疫の業務のために日々現場に出向いて安楽死処置や防疫作業に当たることに

なった。そして翌年の2011年には、新燃岳の噴火で高速道路が封鎖され、車社会である宮崎県では経済活動が更なる低迷をすることとなる。また同年に高病原性鳥インフルエンザも猛威を振るい、鶏舎での目視による検査員が不足し、またもや我々大学教員も現場に赴き防疫に関する仕事に携わった。たった2年間の間に、口蹄疫、新燃岳の噴火、そして高病原性鳥インフルエンザという感染症と災害を経験したことで学内ではある程度感染症に関する基礎的な考え方が根付いていた。

しかし、これまでの感染症と異なる点は、圧倒的に人流の抑制が重要視されたことであり、口蹄疫や鳥インフルエンザでも畜産農家の移動にはかなりの制限があったものの一般の方の行動制限はそれほど行われてなかった。しかし、全国的に行動制限が課せられることで、動物病院での診療体制にもかなりの影響が出始めてきた。

そこで、2020年3月の時点で早急に遠隔診療の準備を行った。遠隔診療として準備したものがiPadと駐車場でアクセス可能なwifiの整備である。小さな大学であったため、動物病院長の権限でwifiを駐車場に設置した。飼い主とのソーシャルディスタンスを確保し、二次診療を行うため、遠隔診療を導入した。まず、飼い主は動物病院の受付を済ませると、車で待機してもらおう。動物は、受付前のケージに入れてもらうが、入れる前に次亜塩素水の入ったバケツにタオルを用意して、そのタオルで動物をきれいに清拭してもらい、動物に付着しているウイルスや

病原体の消毒を行った。その後スタッフが動物を受け取り、我々獣医師は診察室から車で待機している飼い主にZOOMを用いて問診を行う。問診後、診療を行い、再度動物をケージに入れて返却する。こうすることで、我々獣医師と飼い主の接触が全くない状態で診療を行うことが可能であった。当初は、モニター越しの診療で飼い主に対して共感ができるのか？臨場感のある診察が可能なのか？と危惧していたが、実際にモニター越しで話してもしっかりと意思疎通は取れることがわかり、安楽死処置をしなければいけない疾患やかなりシビアな状態を理解していただくという難しい場面でのインフォームドでも問題なくモニター越しで行うことができると実感した。また教育病院であるため、診療風景を学生に見学させたりしていたが、同じ空間に患者（飼い主）がいないため、メモを取ったりすることができ、教育効果はむしろ高いことが明らかとなった。

遠隔診療のデメリットは、wifiの安定性が悪いと画像や音声が乱れてなかなか思うように診療ができないこともあったが、wifiの環境を改善することでそれは改善した。幸い、新型コロナウイルスが犬や猫に感染してそれを人に伝播するということがほとんどなかったため、このような診療スタイルが確立できたと考えられる。

しかし、宮崎県ではその後SFTSという人獣共通

感染症も身近な存在となってきた。SFTSは、猫では非常に致死率の高い疾患であり、猫から人に感染する感染症であり、実際に宮崎県内の獣医師がSFTSに感染した猫を診療し、SFTSに罹患し入院し、一時は生死をさまよう事態となった事例も発生している。この獣医師は、猫の診療中にすでにSFTSを疑っていたため、ガウンを着用し、マスクと手袋をしていたにもかかわらず、感染している。おそらく眼鏡をしていなかったため、そこが感染ルートだと考えられている。我々臨床獣医師としては、これまでも様々な人獣共通感染症を扱ってきたが、レプトスピラやブルセラといった感染症とは一味も二味も違う感染性の高いSFTSウイルスに遭遇する機会が増えてきているのが現状である。私は、2021年に現職である北海道の大学に移籍したが、北海道ではこれらの感染症が少なくやはり獣医師の危機意識もかなり低いと感じている。しかし、学内のスタッフがコロナに感染し診療に影響が出るなどの事態が生じたこともあり、遠隔診療の方法を本学でも導入すべくいろいろと動いているのが現状である。

今回の講演では、私が今回のパンデミックで感じいろいろと対応策を考え実行したため、その概要を紹介したいと考えている。次なるパンデミックに向けたアイデアの1つになれば幸いである。

雲南紅豆杉の材抽出成分による抗がん作用

赤尾幸博

Yukihiro Akao

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学 連合創薬医療情報研究科

植物の二次代謝産物（以下ファイトケミカル）による抗がん作用については多くの報告がある。ファイトケミカルは抗酸化作用のみならずがん細胞の増殖を抑える機能を有している成分も多くある(1)。抗がん剤として実用化されたタキソールはその代表的な化合物である。タキソールはイチイ科 (*Taxus Brevifolia*) の樹皮の成分として1971年に発見され(2)、以後イチイ科の樹皮成分における抗がん剤シーズ開発の研究が盛んに行われた。一方、その材の成分における抗がん作用については十分な検証はされていない。今回、我々は材のアルコール抽出物についてがん細胞に対する作用を調べた。9種の様々なヒトがん細胞株に対して極めて低濃度においてすべての細胞株に対してアポトーシスを誘導した。しかし、正常な細胞株に対して増殖抑制作用は見られず、がん細胞に特異的であった。そのアポトーシスは主に外因性シグナルを介するmiR34a/E2F3ネットワーク(3)の脱制御であった。その結果、TRAIL/DR5及びFasL/FasのDeath receptor/Ligandが活性化

され、アポトーシスが誘導されることが分かった。このことは材の成分ががん細胞をアポトーシスに誘導するのみならず、腫瘍免疫に関わる cytotoxic-T細胞やNK細胞の標的にして殺細胞効果を上げることが示唆され、がんの予防のサプリメントとしての正当性が示された。

- 1) Anti-cancer effects of naturally occurring compounds through modulation of signal transduction and miRNA expression in human colon cancer cells. Kumazaki M, Noguchi S, Yasui Y, Iwasaki J, Shinohara H, Yamada N, Akao Y. J Nutr Biochem. 2013 Nov;24 (11):1849-58. doi: 10.1016/j.jnutbio.2013.04.006.
- 2) Plant antitumor agents. VI. The isolation and structure of taxol, a novel antileukemic and antitumor agent from *Taxus brevifolia*. Wani MC, Taylor HL, Wall ME, Coggon P, McPhail AT. J Am Chem Soc. 1971 May 5;93 (9):2325-7. doi: 10.1021/ja00738a045.
- 3) OncomiRs: the discovery and progress of microRNAs in cancers. Cho WC. Mol Cancer. 2007 Sep 25;6:60. doi: 10.1186/1476-4598-6-60.

赤尾 幸博

昭和27年4月11日生まれ

略歴:

昭和53年3月 大阪医科大学卒業

昭和53年4月 名古屋第一赤十字病院内科(骨髄移植)

昭和59年4月 名古屋大学医学部第一内科、分院内科 (医学博士取得)

昭和63年9月 米国ウイスター研究所 (Dr. Carlo M.Croce)

平成2年9月 名古屋大学医学部分院内科

平成3年4月 愛知県がんセンター研究所 (化学療法部) 主任研究員

平成5年9月 大阪医科大学助教授

平成8年7月 岐阜県国際バイオ研究所部長

平成21年4月 岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科教授

平成30年4月 岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科特任教授

大阪医科薬科大学客員教授

■専門および得意な分野・研究

分子生物学、腫瘍生物学、がん予防、マイクロRNA創薬

■本テーマ関連学協会での活動

日本核酸医薬学会 評議員

日本がん分子標的治療学会 評議員



次なるパンデミックのための人獣共通感染症の理解

岡林環樹

Tamaki Okabayashi

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター・宮崎大学農学部獣医学科獣医微生物学研究室

新興感染症 (Emerging Infectious Diseases, エマージング感染症) とは、「新しく認知されて、国際的に公衆衛生上の問題となる感染症」で、1970年代のエボラ出血熱やエイズ (後天性免疫不全症候群) などの発生後に認識された新しい感染症です。その中にはインフルエンザ、SARS、MERS、ZIKA、SFTS、そして「今、まさに」猛威を振るい続けている新型コロナウイルス感染症が含まれています。このような新興感染症の75%は人獣共通感染症 (Zoonoses ズーノーシス)、つまり「動物から人」、または「人から動物」という感染環によって伝播される感染症です。このような状況からも、近年の感染症の発生、そしてその流行拡大において動物の役割が大きいことが容易に考えられます。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、改めて感染症への注目が高まり、その理解が求められています。新型コロナウイルス感染症も、動物を起源と

する人獣共通感染症であるということはよく知られていると思います。しかしながら、なぜ急に新型コロナウイルス感染症が、現代の世界に現れたのでしょうか。そして、新型コロナウイルス感染症は、今後どうなっていくのでしょうか。

今回の発表では、新型コロナウイルス感染症を人獣共通感染症としての視点から振り返り、新たな人獣感染症を引き起こさないためにできることは何かを考える機会にしたいと思います。また、日本国内においても新しい人獣共通感染症として認識され、日本では考えられないほど非常に致死性の高い重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) についての知見について、発表者の取り組みを中心に紹介します。このような新たな人獣共通感染症の流行から見えてくる動物と人の関わり方、そしてその最前線に立つ獣医師の役割についての課題を共有させていただきます。

岡林 環樹

平成8年4月～平成12年3月 酪農学園大学獣医学研究科博士課程獣医公衆衛生学専攻
「我が国における紅斑熱群リケッチア症の血清疫学、分子疫学、および分子系統樹解析」

平成11年1月～平成13年3月 日本学術振興会特別研究員
「我が国における病原性、非病原性紅斑熱群リケッチア症の疫学」

平成12年4月～平成13年5月 国立感染症研究所獣医科学部協力研究員
「持続感染するヒトバベシア感染症に関する研究」

平成13年5月～平成14年4月 大阪大学微生物病研究所エマージング感染症研究センター
「フラビウイルスのコア蛋白質核移行機序と生物学的機能」

平成14年5月～平成22年3月 札幌医科大学医学部微生物学講座助手、講師
「ウイルス感染における細胞内情報伝達経路の解析 (SARS、RSV、麻疹、FluV)」

平成22年4月～現在 大阪大学微生物研究所タイ拠点マヒドン-大阪感染症研究センター 特任准教授
「マヒドン-大阪感染症センター体制の構築と共同研究の推進」
「～デングウイルス、チクングンヤウイルス、その他の節足動物媒介性ウイルスについて～」

平成27年4月 宮崎大学農学部獣医学科獣医微生物学研究室准教授
牛呼吸器疾患関連ウイルス（牛RSウイルス）、豚流行下痢（コロナウイルス）：
上皮細胞におけるウイルスと細菌の複合感染、重症機序解明
重症熱性血小板減少症ウイルス（SFTSウイルス）：感染サイクル解明、治療抗体開発

平成31年4月 宮崎大学農学部獣医学科獣医微生物学研究室教授

令和3年4月 宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター・副センター長/海外連携・教育部門部門長

「腸管」と「皮膚」と「口腔」をターゲットにした犬アトピー性皮膚炎(cAD)に対するマルチモーダルアプローチ

川野浩志

Koji Kawano

東京動物アレルギーセンター 藤田医科大学医学部 消化器内科学講座

1) Tokyo Animal Allergy Center 2) Department of Gastroenterology and Gastroenterological Oncology, Fujita Health University

2015年に動物アレルギー性疾患国際委員会(International Committee on Allergic Diseases of Animals: ICADA)から発表された犬アトピー性皮膚炎(cAD)に対する国際的な診療ガイドラインを参照すると、cADの主たる原因は「皮膚炎症の誘起に伴う皮膚(特に表皮細胞)の恒常性低下」、「引っ掻く等の物理的作用による表皮バリア機能の低下」及び「それに伴うアレルゲンの体内侵入によるさらなる皮膚炎症の誘起」であろう。さらに、犬アトピー性皮膚炎の病変部における皮膚感染症(膿皮症およびマラセチア性皮膚炎)との併発が多くみられ、cADをより悪化させていく二次的要因として考慮すべきである。

Felipe Pierezanらは、cAD病変部位における皮膚常在菌の影響に関して、*Staphylococcus pseudintermedius* (*S.pseudintermedius*)などの病原性菌の増加が起こりcADを悪化させていることを報告している。さらに、近年では、cADは、腸管免疫に起因する免疫バランスの不均衡が関係しているという研究が報告されはじめている。例えば、AsahinaらやNuttallらは、cADでは、Th1/Th2細胞のバランスがTh2優勢の免疫状態にシフトし、血中などでTh2由来のサイトカインであるIL-4やIL-13さらにIL-31が増加することを報告している。

以上の背景を鑑み、cAD治療のポイントを整理すると、「皮膚常在菌の一過性増殖の抑制」

「皮膚における炎症抑制と表皮バリア機能の回復(皮膚の恒常性改善)」

「腸内環境の改善を通じた免疫系バランスの調整」
これらの視点に立ったcADの治療方法を再案す

るにあたり「皮膚常在菌の一過性増殖の抑制」は、キシリトールやエリスリトールに代表される糖アルコールを用いた口腔内細菌の増殖抑制に関する研究報告が応用できる。実際に、Katsuyamaらは、糖アルコールを配合したスキンケアを行うことでヒトのアトピー性皮膚病変部位における*Staphylococcus aureus*に関し影響を及ぼすことでアトピー性皮膚の改善効果を示すことを報告している。

糖アルコールは、口腔内疾患関連菌の増殖を抑え、歯周病の原因菌(*Porphyromonas gingivalis*)やう蝕の原因菌(*Streptococcus mutans*)に対し予防的効果を発揮することは周知の事実である。糖アルコールの一種であるエリスリトールは、犬においても安全性が確認された糖アルコールであり、皮膚における*Staphylococcus pseudintermedius*や緑膿菌に対して静菌的な増殖抑制効果を検証している。犬の歯周病は歯肉周辺に口腔内マイクロバイオータのバイオフィルムが形成されることにより進行する。犬の歯肉病変部のマイクロバイオータに対するエリスリトールの効果を検証した研究でも歯周病に関連する*Porphyromonas gulae*、*Porphyromonas cangingivalis*、*Bergeyella zoohelcum*、*Fusobacterium*が優位に減少したことから、エリスリトールは*Porphyromonas gulae*をはじめとする犬の歯周病関連菌に対して静菌効果を示すことが明らかになっている。

さらに、犬が皮膚を舐めることにより口腔内の歯周病関連菌が皮膚へシフトすることにより膿皮症が悪化する可能性もあり、口腔内の衛生管理はcAD症例においても重要となる。

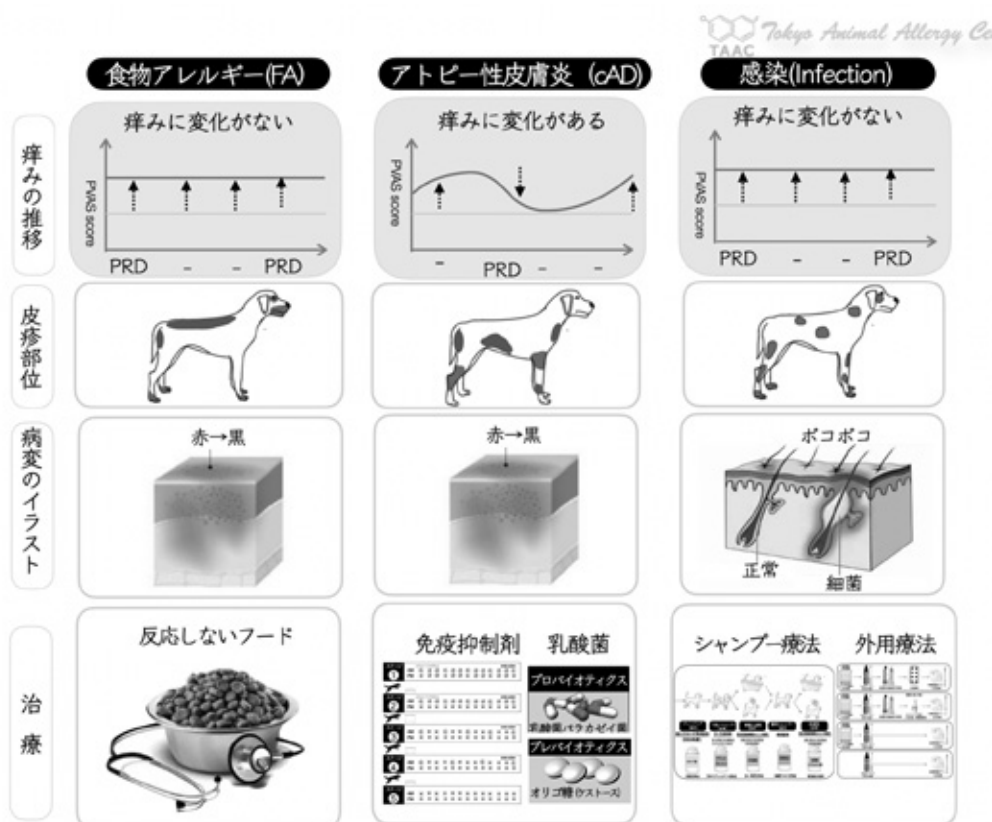
さらに「腸内環境を改善できる素材を用いた全身免疫系バランス調整」については、有用菌をそのまま摂取する「プロバイオティクス」と、宿主の腸内に存在する有用菌を増やす効果をもつ「プレバイオティクス」の摂取が有効であるが、ヒトにおいては、プロバイオティクス／プレバイオティクスを用いた腸内環境の改善を通じ、いくつかのアレルギー症状が改善することが数々の臨床試験において報告されている。

犬の腸内環境に対しても効果が検証されているプロバイオティクス／プレバイオティクスはいくつか存在する。例えば、Akagumaらは、*Lactobacillus paraccasei*を投与することにより、犬アトピー性皮膚炎に対し、一定の改善することを報告している。また、Ideらは、3糖プレバイオティクスである1-kestoseを用いることにより、犬の腸内有用菌を増加するとともに、アレルギー症状の改善に関与する腸内短鎖脂肪酸である「酪酸」を特異的に増加させることを報告している。東京動物アレルギーセンターにて、cADに改善をもたらす可能性が示唆されたプロバイオティクス／プレバイオティクスのうち、*Lactobacillus paraccasei*と1-kestoseのシンバイオティクス効果によるcAD改善効果を検証した結果、改善効果の期間にはばらつきがあるものの、多くの個体において、cADの改善効果が示された。

以上、糖アルコールを使った皮膚外用剤と口腔内ジェル、さらには犬にてエビデンスが報告されているプロバイオティクス／プレバイオティクスによる皮膚と腸と口からのマルチモーダルアプローチはcAD治療において非常に有効である。

本発表において、我々は、以下の事項を報告した。

- 1) cAD治療のポイントは、「皮膚常在菌の一過性増殖の抑制」「皮膚の炎症抑制とバリア機能の回復（皮膚の恒常性改善）」「腸内環境の改善を通じた免疫系バランスの調整」の3点である可能性が高いこと
- 2) 糖アルコールを用いた皮膚常在菌および口腔内常在菌への静菌作用の重要性
- 3) 犬の腸内環境改善にエビデンスと実績のあるプロバイオティクス／プレバイオティクス（*Lactobacillus paraccasei*、1-kestose）の投与によりcADに対する臨床症状が一定の改善効果を示した。症例数は少ないもののステロイド及び抗微生物薬の併用による従来のcAD治療方法と全く異なるアプローチにより、明確なcAD改善がみられる症例報告ができたことは、著者の最終到達点でもある「犬アトピー性皮膚炎に対する脱医薬的治療」に向け大きく前進するものであると考えている。



川野 浩志

(獣医学博士、日本獣医皮膚科学会認定医)

東京動物アレルギーセンター

藤田医科大学医学部 消化器内科学講座 客員講師



所属学会・資格・役職

日本獣医皮膚科学会

獣医アトピー・アレルギー・免疫学会

比較統合医療学会

日本サプリメント評議会(評議委員)

【略歴】

1998年 北里大学獣医畜産学部獣医学科卒業

2000年 東京大学附属動物医療センター研修医

2007年 米国 MedVet Medical & Cancer Center皮膚科 研修

2012年 世界獣医皮膚科会議(カナダ・バンクバー)

2013年 米国 Veterinary Speciality Center皮膚科 研修

2014年 日本獣医皮膚科学会認定医取得

2016年 世界獣医皮膚科会議(フランス・ボルドー)

2017年 山口大学連合獣医学研究科 博士号(獣医学)取得

2019年 東京動物アレルギーセンター センター長

2020年 世界獣医皮膚科会議(オーストラリア・シドニー)

2021年 藤田医科大学医学部 消化器内科学講座 客員講師

一般演題

座長：鷺巣 誠（元岐阜大学）

- 10:10 ~ 10:25 1 「玄米・米糠発酵食品による抗炎症作用、発がん抑制作用」
水野知光（株式会社玄米酵素）
- 10:25 ~ 10:40 2 「水素・酸素混合ガス吸入を併用し治療を試みた犬の疾患（5 症例）に関する考察」
中下輝一郎（HYDRECH 株式会社）
- 10:40 ~ 10:55 3 「COVID-19 に対する統合医療の効果」
山口貴也（山口醫院）

座長：山口愛子（山口醫院）

- 10:55 ~ 11:10 4 「プラセンタエキ스가イヌの運動機能に及ぼす影響について」
田原健太郎（株式会社日本生物製剤）
- 11:10 ~ 11:30 5 「アクアフォトミクスによる臨床試験」
ストイロフ アレクサンダー ボイコフ（ゆの里アクアフォトミクスラボ）

座長：中下慎一郎（HYDRECH 株）

- 15:20 ~ 15:35 6 「PLs（プラズマローゲン）含有複合サプリメントを用いた老犬の痴呆症治療に関する臨床的検討」
飯田重寿（株）スーパーライトウォーター）
- 15:35 ~ 15:50 7 「鼻腔内悪性黒色腫に漢方薬とオゾン療法を施した犬の 1 例」
橋本真里奈（東千葉動物医療センター）

玄米・米糠発酵食品 による 抗炎症作用、発がん抑制作用

Anti-inflammatory and anti-carcinogenic effects by Fermented brown rice and rice bran with *Aspergillus oryzae*

水野知光, 藤田 仁

Tomomitsu Mizuno Jin Fujita

株式会社玄米酵素

Genmai Koso Co., Ltd.

玄米・米糠発酵食品 (Fermented brown rice and rice bran with *Aspergillus oryzae* : FBRA) は、「玄米食は健康に良いことは分かっている、続けられない」という課題を克服するため、玄米と米糠を麹菌によって発酵させた栄養補助食品である。FBRA は、玄米の乏しい消化能が改善され、玄米・米糠に豊富に含まれる栄養成分の手軽な摂取が可能、栄養補助食品として製品化されている。近年では犬用にも製品化されている。今回はこれまでに明らかになった FBRA の機能性について報告する。

酸化を抑える

FBRA には、フェルラ酸、 γ -オリザノール、エルゴチオネインなど多様な抗酸化成分が含まれている。ラットに玄米酵素を与えたところ、酸化ストレスマーカーである 8-OHdG が下がり、生体内の活性酸素の働きを抑えることが確かめられた。ヒトにおいては、FBRA を摂取すると腸内細菌が、抗酸化作用のある水素ガスを作り、体内に吸収され、呼気から検出された。

発がんの抑制

ラットに大腸がんを誘発する実験において、FBRA が大腸がんの発生を抑制することが明らかになったことをきっかけに、これまでに 10 種のがん誘発モデル実験を用いて、肝臓がん、肺がん、胃がん、

前立腺がん、食道がん、口腔がん、膀胱がん、胸腺リンパ腫の発がん抑制効果、膵臓がん、前立腺がんの進行抑制効果が確かめられた。

炎症の抑制

マウスに炎症を引き起こす実験モデルを使い、抗炎症作用があること、炎症性の発がんを抑えることが明らかになった。この抗炎症作用は、原料の玄米・米糠ではなく、麹菌による発酵によって付加されることが明らかになった。

さらに皮膚炎、花粉症、大腸炎、肝炎を引き起こすモデル動物実験により、皮膚炎や花粉症の抑制、大腸炎の抑制、肝炎発症の遅延といった機能が確かめられた。

血中コレステロールやHbA1cを下げる

玄米・米糠に含まれている γ -オリザノールは血中の総コレステロールや LDL コレステロールを下げる働きが知られている。同様に玄米や米糠に含まれるフィチン酸が、HbA1c や血中 AGEs を下げる可能性を示唆する研究結果が出ている。FBRA の 1 日の目安摂取量には、これらの機能を発揮する量の γ -オリザノールやフィチン酸が含まれている。

今後は、医師・歯科医師・獣医師とともに生活習慣病の予防に関する症例をまとめ、発表していきたい。

水素・酸素混合ガス吸引を併用し治療を試みた 犬の疾患（5症例）に関する考察

中下輝一郎

Kiichiro Nakashita

HYDRECH株式会社

イヌの臨床症例に対して水素・酸素混合ガス吸引をし、治療し得た系統的な研究報告は演者らが検索した限り国内では、見当たらない。

今回演者らは、

1. ケアンテリアのパンティング症状
2. パグのアトピー性皮膚炎・変形性脊椎症、短頭種気道症候群、炎症性腸疾患（IBD）
3. パピヨンの急性腎不全、僧帽弁閉鎖不全症（MR）、胆泥症、椎間板ヘルニア
4. 柴犬の腎不全、胆泥症、アトピー性皮膚炎、環椎・軸椎形成不全
5. 雑種犬の慢性腎不全、僧帽弁閉鎖不全症（MR）

これらの5症例に対し水素・酸素混合ガス吸引を従来の治療に対し併用することで良好な治療経過を得ているので、その概要を報告する。

1. ケアンテリア（年齢11歳 体重6kg）：パンティング症状

1年前より呼吸亢進（パンティング）症状を示し、CRP値は高値を示していた。また、X線検査による肺炎像も確認された。従来の一般的な治療法に加え、水素・酸素混合ガス吸引を行った。治療を開始して1週間後には、肺炎像の消失が確認できた。7月中旬からは、聴診検査の呼吸音・肺雑音に改善が見られ始めた。また、CRP、WBC値も徐々に改善され炎症を抑制することに成功した。

2. パグ（年齢5歳 体重9.08kg）：アトピー性皮膚炎、変形性脊椎症、短頭種気道症候群、炎症性腸疾患（IBD）

3年前よりアトピー性皮膚炎、変形性脊椎症、短

頭種気道症候群、炎症性腸疾患（IBD）にてステロイド剤、健胃剤（経口）、整腸剤（経口及び外用）、レーザー療法等を繰り返し、症状を抑制してきたが嘔吐、嘔気、喘息、咳嗽等がなくなり、また下痢が時々みられる。2020年10月13日より上記の治療に加え、水素・酸素混合ガス吸引を行った。治療を開始して1か月後、食欲の向上が確認された。12月中旬には掻痒感が改善し、白血球数及び白血球百分比もほぼ正常化したことから、慢性炎症が改善されていると判断した。また、治療前に認められたALP値の上昇がなくなったことからステロイド剤の副作用が軽減されていると考えた。変形性脊椎症については近赤外線治療と水素・酸素混合ガス吸引を組み合わせることで局所循環が改善し、痛みも緩和されたと考察した。

3. パピヨン（年齢14歳 体重2.2kg）：急性腎不全、僧帽弁閉鎖不全症（MR）、胆泥症、椎間板ヘルニア

椎間板ヘルニア手術後約半年の経過でリハビリ中に急激な高窒素血症を起こし上診した。従来の椎間板ヘルニア手術後のリハビリテーションには、半導体レーザー、近赤外線照射を適用継続した。腎不全に対しては、点滴、ホモトキシコロジー（腎臓用）に加え、水素・酸素混合ガス吸引を実施した。2月16日から治療を開始し、腎不全（BUN, Creatinine）、僧帽弁閉鎖不全症（CK）、胆泥症（ALT）、椎間板ヘルニア、CRP値が明らかに改善されたため、2月19日に退院し通院治療としたが、2月25日にBUN値の上昇が再度みられたため、入院治療を行った。2日後には高窒素血症が改善でき、3月には順調な全身状態の改善が認められた。

4.柴犬(年齢13歳 体重7.5kg):腎不全、胆泥症、アトピー性皮膚炎、環軸椎形成不全

近医にて腎不全と診断されたが、特に効果的に治療できず、紹介され転院してきた。

従来の一般的な治療に加え、水素・酸素混合ガス吸引を行った。5月末より治療を開始し、8月中旬にはそれまで聴取されていたLevine II / VIの僧帽弁領域における心雑音が消失した。また、8月上旬に胆泥がEcho検査により発覚したが、治療を継続することにより、8月中旬には消失した。10月以降はALT、AST値が改善されてきた。腎機能については、少しずつではあったが、BUN、Creatinine値が正常化していき、10月以降は安定した。アトピー性皮膚炎に関しては、11月中旬になると掻痒感が消失し、特に水素・酸素混合ガス吸引後は症状が改善する傾向がみられた。環軸椎形成不全については、水素・酸素混合ガス吸引、近赤外線照射を続けることにより疼痛症状がみられなかったが、水素・酸素混合ガス吸引を一定期間止めると、疼痛症状の再発があるので現在も継続して吸引を実施している。

5.雑種犬(年齢13歳 体重8.5kg):慢性腎不全、僧帽弁閉鎖不全症(MR)

PU/PD(多淫多尿)として来院。従来の一般的な治療に加え、水素・酸素混合ガス吸引を行った。7月より治療を開始し、BUN、Creatinine値が少しずつではあるが改善傾向を示し、8月末以降はBUNが30を下回る日が多くなっていき、10月には活力、食欲ともに大幅な回復を見せ、慢性腎不全の改善が確認できた。僧帽弁閉鎖不全症に関しては呼吸状態も改善してきたが、聴診でLevine II / VIの心雑音が再度聴取されたため、継続治療を実施することとした。

以上のように、従来の治療に加え、水素・酸素混合ガスを吸引した所、良好な成績を得た。また、水素・酸素混合ガス吸引を適切な治療方法と組み合わせることにより、効果的な治療ができることも確認できた。今後は更に臨床例を重ね、水素・酸素混合ガスのイヌの臨床例への適用の可能性即ちその適応と限界について考察していこうと考えている。

COVID-19に対する統合医療の効果

Efficacy of integrated medicine in cure of COVID-19

山口貴也

Takaya Yamaguchi

山口醫院

Yamaguchi clinic

緒言

SARS－COV2によるCOVID19が治療法が無いと言われ社会問題になっているが、当院にてCOVID-19に対する治療を統合医療を用いて行い奏功した例があったので報告をする。この事は今後のパンデミックに対する治療法を考える上で標準治療の枠組みを超えた治療を選択肢として選ぶ契機になると考えられる。

症例1

75歳男性 既往歴として肥満、2型糖尿病、陳旧性心筋梗塞が既往にあり発熱を認めたためかかりつけ医を受診しPCR検査をした。検査執行後PCR検査陽性であった為入院を勧められたが拒否し、解熱剤処方された。当院に連絡があり治療法について遠隔診療を行った。ウィルス疾患に効果あると言われる原子状炭素（AC）ウィルス用の飲用とレプトンガスの吸入にて一晩にて解熱。その後発熱はなかった。

症例1の勤務する会社ではその後発熱者が現れた。7名中5名がACウィルス用の飲用で二十四時間以内に解熱。1名は飲用せず呼吸不全を起こし入院となった。1名はACウィルス用が無く濃度が低いものを使ったが発熱が3日ほど持続した。

症例2

43歳女性 高熱と咳嗽を認め近医受診。SARS－COV2抗原検査で陰性であったが、症状続いたため受診。周囲の感染状況、症状よりCOVID19が疑われた。スペインでの報告にオゾン療法がCOVID19に効果的であったという物があったが、通院が困難であっ

た為オゾン化オイルを坐薬状にし冷凍保存した物と5-ALA1800mg /日分3を処方した。咳に対しては慈陰降下湯を処方した。翌日に解熱し倦怠感は消失した。咳が残ったが漢方薬の継続で徐々に改善した。

症例2と同勤務先の49歳女性が最近家人より味付けが濃いと指摘を受けた事と味の嗜好が辛いものを好むようになったという主訴で受診した。コロナ後遺症の可能性があり症例2同様にオゾン化オイルの坐薬と5-ALA1800mg /日分3処方をした所数日で味覚が戻ったと報告があった。

症例3

64歳男性 既往歴としてI型糖尿病、脳梗塞、脳出血があり、発熱を認めたため受診。受診時体温39.1度SpO296%。倦怠感強く意識状態は混濁していた。原子状炭素の飲用とレプトンガス水素ガスの同時吸入、キントンアイソトニック、ハイパートニックを各20ml静注、セラキュアによる治療を行い帰宅。翌日解熱した。

症例4

13歳男性 発熱を認め近医受診。COVID-19と診断された。診断された当日に母親より当院へ相談があり原子状炭素の飲用、5-ALA、昆布菌ちゃん（当院で使用している昆布、小豆、ナノサイズの乳酸菌の死菌、マヌカハニー入りの飴）の飲用で翌日に解熱。家族3人も発熱しCOVID-19と診断されたが同様の方法で1日で解熱をした。

症例5

56歳女性 発熱と咳を認め発熱外来受診、SARS-COV2 PCR検査陽性となり自宅療養を指示された。頭痛、吐き気、節々の痛み、悪寒が強く知人に相談した。知人より当院紹介され、遠隔治療を行なった。遠方であるため、治療に必要な物を受け取るまでに2日かかるので身近にある物で治療を行う事とした。緑茶の飲用、パイナップルの食用、葛根湯の内服を指示し翌日に解熱をした。

考察

当院ではCOVID-19は二類感染症に定められており統合医療的治療が行いにくい状況ではあるが、自宅療養と言われた患者から治療の要請があり治療を行っている。私の経験した症例では診断を行った医師よりアセトアミノフェンや鎮咳薬等の対症療法が行われていた。その様な一般的な治療を行うよりも原子状炭素やレプトンガス、オゾン、5-ALA、水素ガス等を使い効果的な症例が認められたため今回紹介をした。今後もパンデミックが起こったさいに感染症者に対して様々な治療が行われると思われる。その際に統合医療を併用した治療が行われる事が望まれる。

プラセンタエキスがイヌの運動機能に及ぼす影響について

The Effect of Placental extract on locomotor function in dogs

田原健太郎

Kentarou Tahara

株式会社日本生物製剤

JAPAN BIO PRODUCTS Co.,Ltd

現在、イヌの高齢化が進んでおり、様々な運動機能の低下に対する治療が、重要な課題の一つとなっている。一般的に変形性関節症をはじめとする関節炎等、疼痛を生じる疾患に対しては、非ステロイド性消炎鎮痛剤（NSAIDs）が使用される場合が多いが、消化器障害などの副作用を招来する例が多いため、副作用が少なく、安全性の高い治療薬が求められている。

これまで動物由来の胎盤抽出物を使用したヒト用サプリメントにおいては、関節疾患に対する作用が、ヒトを対象にした臨床研究で報告されており、関節疾患の改善に有用である可能性が示唆されている。

本試験では、関節炎等による運動機能障害のある高齢犬に対して、プラセンタエキスを含有したサプリメントを4週間継続投与し、その有効性及

び安全性を検討した。登録した30例のうち、投与期間が完了した26例を有効性評価の解析対象とした。また安全性評価の解析対象は、一度でもプラセンタエキスを投与した患犬を対象とし、30例とした。疼痛や活動性の評価として、担当医による Visual Analogue Scale（以下、VAS）を用いた。その結果、主要評価項目である疼痛と活動性のVASに改善がみられた（ $p<0.001$ ）。同じく主要評価項目である獣医師による総合評価についても、26例中、症状が悪化した例はなく、24例で改善していると判定された。また、本試験期間中、有害事象の報告はなく、臨床検査値の異常変動も観察されなかった。したがって、プラセンタエキスは関節炎等による運動機能障害のある高齢犬に対して疼痛や活動性を改善し、安全性の高いサプリメントである可能性が示された。

アクアフォトミクスによる臨床試験

Aquaphotomics for clinical trials

ストイロフ アレクサンダー ボイコフ

Stoilov Aleksandar Boykov

ゆの里アクアフォトミクスラボ

Yunosato Aquaphotomics Lab

Water is everywhere, inside all living cells and around them, and it carries with it information of its soluble molecules, particles and the surrounding environment through the changes in water molecular conformations. Unfortunately, up until recently, scientists have been mainly focusing only on specific molecules when studying living systems, without considering the water molecular system accommodating the rest. With the help of aquaphotomics, a quick and non-invasive way to investigate water molecular systems has been applied, by monitoring the water EM spectral pattern. In the human medicine field, many studies have already utilized NIR spectra for purposes such as detection of HIV-1 virus in plasma, detection of UV induced mutations of DNA, for *in vivo* monitoring of topical cream effects and dialysis efficacy.

Yunosato Aquaphotomics Laboratory of Yunosato Spa Center has already established production of soy yogurts and various cosmetics by using spectral analyses of water molecular conformations for evaluation and quality control. Earlier studies investigated the spectral patterns of Yunosato waters and changes in their characteristics when blended with one another or with other liquids and organic products at different ratios.

One of the latest projects was related to extracting water from soy yogurt via vacuum

drying. As Yunosato has 3 different waters, the blend of those waters with other liquids brought new products with desired functionality. Another project was also done on sound influencing living systems, displaying how base pitch frequencies influence the properties of water differently. Yunosato hopes to continue facilitating and encouraging the use of aquaphotomics in product development and clinical studies.

水は生物すべての細胞の内部とその周囲に存在し、水溶性物質とそれを取り囲む環境の情報を、水の分子構造の変化を通して伝えている（"Water molecular system"）。残念ながら近年までの科学では、生体システムを研究する際、主に特定の分子にのみ焦点を当て、その周囲にある水を重視することはなかった。アクアフォトミクスとは、近赤外線を使用し水分子の電磁場スペクトルパターンをモニターすることで、迅速かつ非侵襲的に"Water molecular system"を調査することができる方法である。医療分野では、血漿中のHIV-1ウイルスの検出、紫外線によるDNAの変異の検出、塗り薬や透析の有用性における生体内モニタリングなど、すでに多くの研究で近赤外線が利用されている。

「天然温泉 ゆの里」敷地内にある「ゆの里アクアフォトミクスラボ」では、水分子構造のスペクトル解析を品質管理や評価に利用し、自社商品「サショ・豆乳ヨーグルト」や自社化粧品の製造を確立している。また、これまでの研究では「ゆの里」に湧く3種類

の水におけるスペクトルパターンや、他成分と異なる比率でブレンドした場合の特性変化についても調査している。

最新のプロジェクトのひとつは、「サショ・豆乳ヨーグルト」から真空乾燥で水分を抽出することに関連したものだ。別のプロジェクトでは、「ゆの里」の天

然水を他の液体とブレンドすることで、新しい機能性を持つ製品を生み出すことが可能となった。その他、音楽が身体に与える影響にも着目し、音の周波数が水の性質にどのような影響を与えるかを示した。「ゆの里」は、今後もアクアフォトミクスを製品開発や臨床研究に役立てるべく、研究を続ける。

PLs（プラズマローゲン）含有複合サプリメントを用いた 老犬の痴呆症治療に関する臨床的検討

Clinical investigation of the therapy for dementia of senile dogs using complex compounds containing PLs (plasmalogen species)

飯田重寿¹⁾, 臼井雅明¹⁾, 久保 睦²⁾, 山口哲史²⁾, 竹内秀公³⁾, 安川明男⁴⁾

Shigehisa Iida¹⁾, Masaaki Usui¹⁾, Mutsumi Kubo²⁾, Tetsushi Yamaguchi²⁾, Yoshimasa Takeuchi³⁾, Akio Yasukawa⁴⁾

1) (株)スーパーライトウォーター 2) (株)プロ・アクティブ 3) 老犬介護ホーム メロー 4) 中部CIMリサーチ

1) Super Light Water Co.,Ltd. 2) PROACTIVE Inc. 3) rouken-mellow 4) Chubu CIM Research

人の認知症に対し、PLs（プラズマローゲン）含有複合型サプリメント（以下 本サプリ）は2020年11月より株式会社スーパーライトウォーターより発売され、約1000人の臨床例に適用され、良好な成績を収めている。

今回演者らは、本サプリがイヌの痴呆症に対して臨床的に有効であるという情報を得たことから、11例の痴呆症犬に投与し、その臨床症状の変遷について調査した中に、比較的良好な臨床症状の変化を認めた例があったのでその概要について報告する。

<症例の概要>

症例 No.	年齢	犬種	体重 kg/BW	痴呆症を判断した症状	主な併発症状	内野式犬痴呆の診断基準100点法
1	15才	柴犬	6	夜間無駄状態、半径約1mの右旋回、狭所に挟まり動けなくなり悲鳴	眼振	54点
2	14才	柴犬	8.3	左旋回、直進歩行困難、狭所に挟まり動けなくなり悲鳴	特に記載なし	55点
3	15才	柴犬	12.5	夜間無駄状態、半径約1mの右旋回 狭所に挟まり動けなくなり悲鳴 徘徊	前庭症状	71点
4	16才	柴犬	5.8	歩行困難で悲鳴	特に記載なし	72点
5	15才	柴犬	3.5	歩行困難で悲鳴 歯周病	前足が踏ん張れず関節してしまう	72点
6	16才	トイプードル	5.2	夜間無駄状態多発	緑内障（肉眼とも失明） 椎間板ヘルニアのため歩行困難	75点
7	16才	柴犬	9.5	夜間無駄状態 半径約0.6mの右旋回 狭所に挟まり動けなくなり悲鳴	特に記載なし	72点
8	15才	柴犬	12	半径約0.6mで左後肢を軸に左旋回 無駄状態	特に記載なし	72点
9	15才	柴犬	8	夜間無駄状態	特に記載なし	19点
10	18才	ウェストハイランド ホワイトテリア	7.3	飼い主の大声の呼びかけには反応しないがおやつ袋を開封する音に反応する。排便排尿場所が分からず悲鳴を上げる。右旋回しながら方向を決めて歩行をしている。旋回の勢いで転倒することがある。旋回を止めると直立または横臥する。夜間無駄状態。	腎機能低下	45点
11	13才	キャバリアキング チャールズスパニエル	5.8	半径約0.5m右旋回 直進歩行困難 狭所に挟まり動けなくなるが時間をかけて脱出することもある	白内障 緑内障（左目失明） MR（僧帽弁閉鎖不全症）	51点

柴犬 8例 14～16才、平均年齢15才、体重3.5～12.5kg、平均体重8.2kg、トイプードル 1例 16才、5.2kg、ウェストハイランドホワイトテリア 1例 18才、7.3kg、キャバリアキングチャールズスパニエル 1例 13才、5.8kgであった。痴呆症の判断の基準となった症状は旋回運動(左右)(7例)、直進歩行困難(5例)、狭所に挟まり動けなくなる(5例)、夜間無駄状態(5例)であった。

以上の症例に本サプリを症例No.1～6、8・9は1回1錠1日2回（朝・夕）、症例7・11は1回1/2錠1日2回（朝・夕）、症例10は1回1/4錠1日に2回（朝・夕）で投与を開始した。

以下、入所時の稟告と動画またその後も動画をを用いて各症例の本サプリ投与後の臨床症状の経日的変化を観察し、内野式犬痴呆の診断基準を用いて評価した。

症例1では投与後6日目にはほぼ正常の歩行が可能

になった。内野式犬痴呆の診断基準が54点から24点に改善。

症例2では投与後4日目には左旋回半径が拡大し直進歩行も可能になった。また狭所からの回避や脱出も可能になったので、投与後5日から投与量を1/2量に減量した。その後散歩ができるまでに回復し、投与後16日目には痴呆症状が緩和し自宅での介護が可能になった。その後無駄吠えもなく歩行状況もさらに改善し通常の生活ができる様になってい

る。**55点から14点に改善。**

症例3は神経学的な疾患が認められた例であり、本サプリ投与による改善は認められなかった。71点から71点。

症例4では投与後6日目に死亡した。死因は僧帽弁閉鎖不全症による肺水腫であったと考えられた。72点から72点。

症例5は前庭疾患の臨床症状が強く、本サプリの投与後の変化は認められなかった。72点から72点。

症例6緑内障による失明、椎間板ヘルニアの併発などもあり本サプリ投与後の効果に心配があったが投与後1日目で夜間の無駄吠えが止まった。2日目には正常歩行ができる様になり状態観察のため投与を中断したところ、3日目に昼間の無駄吠えがふえたため1日1回1錠の投与を再開した。投与後7日目には全く無駄吠えもなく、その後経過は良く無駄吠えは認められなかったが投与後14日目に再度無駄吠えが酷くなったため、1日2回1回1錠の投与に増量した。その後無駄吠えもなく良好な改善傾向を見せていたが、投与後25日目一時帰宅したところ26日目には夜間無駄吠えが再発し、再度入所した。その後1日2回の投与を続け、現在無駄吠えもなく痴呆症状が改善している。**75点から13点に改善。**

症例7は投与後あまり変化が無く著しい改善傾向は認められていない。本例は死亡した。死因は老衰

であった。72点から72点。

症例8は投与後9日目に夜間の無駄吠えが消失した。**72点から66点とやや改善がみられた。**

症例9は予防的に投与した。投与後あまり変化が無く著しい改善傾向は認められていない。19点から19点。

症例10では旋回運動が経日的に拡大して転倒後も起き上がれるようになった。本例も徐々にではあるが改善傾向が推進していると考えられる。**内野式も45点から38点改善。**

症例11については投与後7日目に狭所から抜け出せるようになった。また旋回運動は描く円が大きくなる傾向がある。**51点から44点やや改善。**

今回は痴呆症罹患犬11症例における本サプリの適用と限界そして今後の治療の可能性について考察した。

現段階の投与量と投与回数では、神経系の疾患が優位にみられる症例には本サプリの有効性が認められなかったが、旋回運動、直進歩行困難、無駄吠え、狭所からの脱出不能などのみの異常症状が認められる程度の症例には本サプリはある程度の有効性を示したと考えた。

今後さらに臨床例を重ね、本サプリの有効性について調査検討をしていきたい。

鼻腔内悪性黒色腫に漢方薬とオゾン療法を施した犬の1例

A case of canine intranasal malignant melanoma treated with Chinese herbal medicine and intracolonic administration of ozone

橋本真里奈

Marina Hashimoto

東千葉動物医療センター

East Chiba Animal Medical Center

はじめに

犬の鼻腔内に発生した悪性黒色腫に対して外科手術にて摘出後、株式会社ツムラの十全大補湯、イスクラ産業株式会社のサプリメントの西伯利亚、露華及びオゾン注腸法を併用したところ症例の状態が500日以上良好に維持出来ているので紹介する。

臨床経過

症例：犬、ラブラドルレトリバー、メス、7歳5ヶ月、体重21.88kg

治療と経過：他院で鼻腔内の腫瘍について抗生物質を用いて治療されていたが、外科手術希望のため本院に転院された。

本院では、CT及び切除生検を実施したところ悪性黒色腫と診断された。飼い主は、拡大手術や化学療法及び放射線治療を希望しなかったため、十全大補湯、西伯利亚、露華及びオゾン注腸法を7～14日

間隔で行った。治療開始から500日以上が経過しており外貌の評価、画像検査を行っているが再発は認めず。化学療法や放射線治療不使用のまま治療は漢方薬の服用、オゾン注腸法のみであるが、本症例は元気で食欲もあり外貌の変化なども起きていない。

考察

今回の犬の鼻腔内悪性黒色腫における漢方薬、オゾン注腸法を併用することで、拡大手術や化学療法及び放射線治療を行わず治療成績が良好であった。

本症例は、病理検査にて底部マージンにも腫瘍細胞が浸潤していたが、内服治療及びオゾン注腸法は負担が少なく治療が可能であった。

したがって、鼻腔内悪性黒色腫の治療には、漢方薬とオゾン注腸法を併用することで良好なQOLの維持が期待される。

08/28^日
sun (2日目)

招聘講演

座長：岡林環樹（宮崎大学）
10:00 ~ 11:00 「比較統合医療におけるプレ・プロバイオティクスの可能性」
栃尾 巧（藤田医科大学医学部医科プレプロバイオティクス講座）

講演

座長：平岡亮子（REX 統合医療倶楽部）
13:00 ~ 14:00 「ワクチンの副作用を含めた COVID-19 と、これから起こる可能性があるパンデミック
に対する個人的見解と対策」
龍見 昇（NOVO クリニック）

座長：山口貴也（山口醫院）
16:00 ~ 17:00 「コロナワクチン後遺症の治療について」
中村篤史（ナカムラククリニック）

比較統合医療におけるプレ・プロバイオティクスの可能性

栃尾 巧

Takumi Tochio

藤田医科大学医学部医科プレプロバイオティクス講座

Department of Gastroenterology and Hepatology, Fujita Health University

近年、様々な研究報告から「疾患と細菌叢（マイクロバイオータ）」との関係性が報告されている。これらの研究結果は、逆に、マイクロバイオータをうまく調整することにより様々な疾病の改善につなげることができるといえる。

プレバイオティクス・プロバイオティクス（プレ・プロバイオティクス）とはそれぞれ腸内に存在する有用菌を選択的に増やし体にとって良い効果を発揮する成分並びに生きた菌を摂取し体にとってよい効果を発揮する生菌であり、アンティバイオティクス（抗生物質）の副作用や抗生物質により発生する耐性菌に対する課題を解決するために生まれた。古くは、20世紀初頭にイリヤ・メチニコフにより提唱されていたが、言葉としては1989年のR.Fullerにより定義されたものが一般的であろう。

現在、プレ・プロバイオティクスは、抗生剤の相対する効果のみならず、腸・皮膚などの常在菌を制御することにより、アレルギー、代謝性疾

患、感染症予防を含め様々な医学的疾患改善の改善に効果を示すことが報告されている。すなわち、プレ・プロバイオティクスとは、広くは「細菌叢を制御し疾病の改善に寄与する成分並びに菌」といえる。

比較統合医療学とは、ヒトと動物、西洋医学と東洋医学、現代医学と伝統医療など様々な学問を統合し新たな治療方針を確立していく学問であるが、両者の学問上の共通項を模索すると「マイクロバイオータ制御」ではないだろうか。

本発表では、医学・獣医学を中心に、プレ・プロバイオティクスを用いたマイクロバイオータ制御による疾病の改善に関し研究事例をご紹介します、比較統合医療学の新たな発展のためプロポーザルを行うものである。

この発表が比較統合学を研究する先生方の研究の一助になれば幸いです。

栃尾 巧（とちおたくみ）

【所属】 藤田医科大学 消化器内科学講座

【学位】 広島大学大学院理学研究科博士課程後期 修了（理学博士）

【専門】 プレ・プロバイオティクス、消化器内科学、皮膚科学

【経歴】

■化粧品メーカーR&D。皮膚科学、化粧品科学を中心に有効性に関する様々な研究に従事。

■化学メーカーR&D研究責任者。プレ・プロバイオティクスの様々な有効性を調べる研究に従事。同時に、藤田医科大学 消化器内科学講座（客員）にて医学系疾病とプレ・プロバイオティクスの研究に従事

■（現在）藤田医科大学 消化器内科学講座

【受賞歴】

2017年5月 一般社団法人 日本プロバイオティクス学会 学会賞

2018年5月 公益財団法人 食品科学振興財団 飯島藤十郎食品技術賞

2019年5月 公益社団法人 日本栄養・食糧学会 研究技術賞

2019年7月 一般社団法人 ウエルネスフーズ アワード

2021年11月 公益社団法人 発明協会 地方発明表彰 発明奨励賞

ワクチンの副作用を含めたCOVID-19と、これから起こる可能性があるパンデミックに対する個人的見解と対策

My personal view on COVID-19 including vaccine side effects and possible pandemics, and how to deal with them

龍見 昇

Noboru Tatsumi

ノボクリニック

NOVO CLINIC

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が発生してから2年半が過ぎているが、この日本では未だに多くの人がマスクを着用しており、まだパンデミックが終わっていないと認識されているようである。

このウィルスが自然発生したものであるとすると、これからどう変異や拡大をしていくかの予想は困難なので脅威に感じるのも無理はない。政府やマスコミは恐怖や不安を煽るような情報しか流さないのだから尚更である。

しかし、人為的に発生させたものとするならばどうだろうか。

突発的な自然現象と違い、我々と同じ人間が意図を持って行っていることと考えれば、まだ予測もできるし、対策も考える事ができる。

新型コロナウイルスに関する世界最初の論文がNature誌に掲載されたのは、2020年2月3日であった。しかし、この病気の原因が新型コロナウイルスであるということは、少なくとも1月16日の段階で報道されていたのである。

2012年のロンドンオリンピックの開会式や2015年のビル・ゲイツのスピーチにもコロナウィルスらしきものが登場しているし、2019年のEVENT201では新型コロナウイルスによるパンデミックのシミュレーションが行われるなど、偶然の一致とは考えにくい事象も数多く存在する。

その他、本来は感染症の診断に適応がないはずのPCRがほぼ決定的な診断法になっていたり、それまで人間に使用されることがないmRNAワクチンが

わずか1年程度の開発で接種が始まったり、理論上効くとは考えられないこのワクチンが多くの国で強要され、すでに世界の7割近くの人が接種してるなど、奇妙なことばかりである。しかし、前述のように誰かが計画して起こしていると考えれば筋が通る。

そのようなことを踏まえて発生から今までの一連の事象を見ていくと、このパンデミックはワクチンを打たせるための演出であったと考えていいのではないだろうか。ワクチンに限らず、これから出てくる新薬には慌てて飛びつかないのが賢明と考える。

感染対策としては、一般的に行われていたマスクの着用、体調が悪い時には外出しないことが、実はかなり有効だったようである。なぜなら、2020年1月からコロナウィルスと感染経路が同じと考えられるインフルエンザの患者が激減し、毎年3万件以上あった学級閉鎖も数えるほどしかなかったからである。ただし、マスクの着用は好発時期である冬以外にはあまり必要ではないと思われる。そして、鼻腔粘膜からの侵入を防ぐためには鼻腔洗浄も有効と考える。

ワクチンの副作用に対しては、イベルメクチンやグルタチオンなどの報告が多いが、当クリニックの治療法でも明らかな効果を認めたので紹介する。

そして、これからのパンデミックだが、今年の2月には、これもビル・ゲイツが「次のパンデミックはコロナウィルスの系統とは違う病原体によるものになるだろう」と「予言」している。

去年の夏には、その病原体は天然痘かマールブル

クウィルスではないかと思わせる記事が既にいくつか出ていたが、今年の5月になって急にサル痘に関する報道が始まった。まだ死亡者が数えるほどなのにWHOが7月23日に緊急事態宣言しているので、

この抄録を書いている時点では次のパンデミックはサル痘である可能性が最も高いと思われる。それについても言及する。

龍見 昇

1992年 神戸大学医学部卒業

1997年 神戸大学大学院卒業 医学博士

1997～2006年 父が開業していた龍見病院（泌尿器科）副院長

2007年 ミトコンドリアのATP産生を改善するメソッドを発見し、ノボクリニックを開業

2016年 「体は治りたがっている」出版



コロナワクチン後遺症の治療について

中村篤史

ナカムラクリニック

一般演題

座長：高橋 薫（羊ヶ丘動物病院）

11:10 ~ 11:25 8 「薬物に頼らない犬と猫の歯周病予防」

川野浩志（藤田医科大学医学部消化器内科学講座）

11:25 ~ 11:40 9 「鍼治療を行った四肢麻痺を呈する頸部椎間板ヘルニア Grade Ⅲ 5 例および多発性椎間板ヘルニア 1 例」

藤田聡子（さとこ犬猫クリニック）

11:40 ~ 11:55 10 「露地栽培アガリクス KA21 のシニア期のイヌ、ネコに対する健康増進作用（中間報告）」

北原淳子（東栄新薬株式会社）

座長：宇都義浩（徳島大学）

14:10 ~ 14:25 11 「漢方による治療が奏効した関節炎の 1 症例」

田中大介（牛久保東ペットクリニック）

14:25 ~ 14:40 12 「犬の周術期における酸化ストレスの評価」

直井康介（酪農学園大学伴侶外科学ユニット）

14:40 ~ 14:55 13 「MetAGin™（アメリカ人参複合乳酸菌発酵エキス末）の筋萎縮抑制効果」

田坂 徹（株式会社皇漢薬品研究所）

座長：平岡亮子（REX 統合医療倶楽部）

15:05 ~ 15:20 14 「歯科における未来の Pandemic 対策」

高橋浩司（おびひろ清流歯科クリニック）

15:20 ~ 15:35 15 「モーズペーストにより腫瘍の局所コントロールができた犬の 1 例」

酒井俊和（酪農学園大学）

15:35 ~ 15:50 16 「手術創ドレッシングにおける竹繊維ガーゼの有用性」

山本集土（酪農学園大学）

薬物に頼らない犬と猫の歯周病予防

Prevention of periodontal disease in dogs and cats without medication

川野浩志

Koji Kawano

東京動物アレルギーセンター 藤田医科大学医学部消化器内科学講座

Tokyo Animal Allergy Center (TAAC) Department of Gastroenterology and Gastroenterological Oncology, Fujita Health University

歯周病とは、歯周組織に生じた細菌性の炎症性病変であり、歯肉周辺に口腔内マイクロバイオータのバイオフィルムが形成されることにより進行する。特に *Porphyromonas gulae* (*P. gulae*)、*Porphyromonas salivosa* 及び *Porphyromonas denticanis* などに代表される *Porphyromonas* を中心とした口腔内細菌が原因菌となることが報告されており、4歳以上の犬の85%が歯周病に罹患している報告も存在する。口腔内疾患に関連したマイクロバイオータを抑えることで最も有名な素材は、糖アルコール類のひとつであるキシリトールであろう。犬においてキシリトールは、低血糖と急性肝炎を起こすことが報告されている。一方で糖アルコールの一種であるエリスリトール (ERT) は、犬において安全性が確認された糖アルコールである。そこで犬の口腔内ケアを行う場合、糖アルコールの中でもエリスリトールを使用することは、安全性・効果の両

面から鑑みて、極めて有効であると考えられる。

そこで今回我々は犬の歯周病に関連すると報告されている *P. gulae* の増殖に対するエリスリトールの効果を *in vitro* で調べた。さらに、軽度の歯周病の犬を対象に、5%エリスリトールを含む外部ゲル製剤を使用した4週間の介入試験を実施し、歯周病病変周辺のマイクロバイオータの変化を、次世代シーケンシング (Next Generation Sequencing, NGS) とバイオインフォマティクス解析を駆使して調査した。結果は、*P. gulae* の増殖は、*in vitro* でエリスリトールによって有意に抑制された。また介入研究では、 α -diversity の指標であるシャノン指数といくつかの犬の歯周病関連細菌 (*P. gulae*、*P. cangingivalis*) の占有率が歯周病巣で有意に減少した。

in vitro および *in vivo* の研究結果に基づき、エリスリトールは犬の歯周病関連細菌に対して静菌効果があると結論付けた。

鍼治療を行った四肢麻痺を呈する頸部椎間板ヘルニア Grade Ⅲ 5 例 および多発性椎間板ヘルニア 1 例

C-IVDD Grade III in 5 cases and multiple disc hernia in 1 case with quadriplegia
treated with acupuncture

藤田聡子

Satoko Fujita

さところ猫クリニック

Satoko Dog & Cat Clinic

【はじめに】

犬の頸部椎間板ヘルニアはHansen I型とHansen II型があり、頸髄や神経根が圧迫され神経症状を呈する疾患である。圧迫の要因を除去する外科治療により一般的に予後は良好であるが、内科治療の長期化により予後が悪化するといわれている。頸部椎間板ヘルニアにおけるMRI所見や手術法を含めた治療、予後に関する報告は多数みられるが、本疾患に対する鍼治療の症例報告は少ない。今回、四肢麻痺を呈する6例に対し、鍼治療と頸部腹側減圧術を行った2例および鍼治療を行った4例において、良好な結果が得られたのでその概要を報告する。

【症例】

症状を初発の頸部痛(Grade I)、繰り返す頸部痛あるいは自力歩行可能な不全麻痺(Grade II)、自力歩行不可能な麻痺(Grade III)の3段階に分類した。初診時にMRI検査により頸部椎間板ヘルニアと診断されていた症例は1例のみで、残り5例は短頭種や高齢を理由に麻酔を拒否されていた。5例のうち2例はその後MRI検査の同意が得られ実施し、1例は頸部椎間板ヘルニア、もう1例は多発性椎間板ヘルニアと診断され、残り3例は症状および経過により頸部椎間板ヘルニアと診断した。

初診時6例において四肢麻痺がみられ、5例にお

いて首を動かすことができない、そして移動させる時の体勢を苦慮する程の強い頸部痛が見られた。鍼治療は週2～1回、風池(GB20)、大椎(GV14)、天柱(BL10)、頭百会(GV20)、肩井(GB21)、労宮(PC8)、曲池(LI11)、合谷(LI4)、腎兪(BL18)、関元兪(BL26)、膀胱兪(BL28)、腰百会(GV20-1)、環跳(GB30)、足三里(ST36)、湧泉(KI1)より選穴し10～20分置鍼した。全例において鍼治療2～4回後には首を多少動かすことができ、抱く体勢も容易になり頸部痛の緩和がみられたが、四肢麻痺の改善はみられなため、MRI検査を実施していた2例においては第19病日頸部腹側減圧術を行い、7～10日後には自力歩行が可能となった。外科治療を行わなかった4例中1例は第70病日(鍼治療10回後)、3例は約第90病日(鍼治療11～13回後)に自力歩行が可能となった。

【考察】

鍼治療の生体への作用として、血流改善、疼痛緩和、筋緊張緩和、抗炎症作用、運動機能回復および自律神経機能回復などが挙げられ、今回の早期回復に寄与したと考えられた。術後早期に歩行可能となる外科治療が第一選択ではあるが、年齢などの理由により飼い主が外科治療を希望しない場合には、鍼治療は一つの治療の選択肢になると思われる。

露地栽培アガリクスKA21のシニア期のイヌ、ネコに対する健康増進作用（中間報告）

Health promotion effect of outdoor cultivated *Agaricus brasiliensis* KA21 in senior dogs and cats.

北原淳子¹⁾，元井章智^{1) 3)}，西原克明²⁾，山中大輔³⁾，安達禎之³⁾，田原口智士⁴⁾

Junko Kitahara¹⁾，Akitomo Motoi^{1) 3)}，Katsuaki Nishihara²⁾，Daisuke Yamanaka³⁾，

Yoshiyuki Adachi³⁾，Satoshi Taharaguchi⁴⁾

1) 東栄新薬株式会社 2) 森のいぬねこ病院川平ペットケアセンター 3) 東京薬科大学薬学部免疫学教室
4) 麻布大学獣医学部微生物学研究室

1) Toei Shinyaku Co.,Ltd. 2) Morino Dogs and Cats Hospital, Kawahira Pet Care Center

3) Laboratory for Immunopharmacology of Microbial Products, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences

4) Department of Veterinary Medicine, Laboratory of Microbiology 2, School of Veterinary Medicine, Azabu University

アガリクスとは薬用キノコの1種で、栽培方法、産地、菌株によって有効性・安全性が大きく異なる。これまでに、ブラジルで露地栽培されたアガリクス(KA21株)の摂取によって、動物試験にて育毛効果や加齢に伴う運動機能の低下抑制作用、中間寿命の延伸効果が確認されている。今回、シニア期のイヌ・ネコ56例を対象に、露地栽培アガリクスKA21株300mgを2か月間給与し、獣医師の満足度、飼い主の満足度の他、給与前後で日中の運動量、毛並み、食欲など健康状態の推移(11段階評価)を比較した。

その結果、健康状態に関しては、1) 元気がない・寝ている時間が多いに該当していた33例では、獣医師の満足度93.1%、飼い主の満足度96.4%、日中の活動量(平均値4.21→5.09、 $p<0.001$)で有意

な改善が確認された。2) 薄毛・毛並みが良くないに該当していた35例では、獣医師の満足度83.9%、飼い主の満足度83.3%、毛量(平均値4.08→5.34、 $p<0.001$)、毛並み・毛艶(平均値3.83→5.54、 $p<0.001$)で有意な改善が確認された。3) 加齢により食欲が下がってきたに該当していた21例では、獣医師の満足度93.8%、飼い主の満足度86.7%、食欲(平均値3.76→5、 $p<0.01$)で有意な改善が確認された。

上記の結果から、露地栽培アガリクス(KA21株)を含有したサプリメントを給与することで、シニアのイヌ・ネコの運動量、毛並み、食欲の改善などの健康増進作用が期待される。

漢方による治療が奏効した関節炎の 1 症例

A case of arthritis that was successfully treated with Chinese herbal medicine

田中大介

Daisuke Tanaka

牛久保東ペットクリニック

Ushikubohigashi pet clinic

動物病院における診療及び治療は西洋医学が中心に行われており、東洋医学、中医学、代替医療などはごく一部の病院でのみ行われている。当クリニックも西洋医学における標準的な治療を中心に診療を行っている一次病院であるが、近年オゾン療法、レーザーなど代替療法などの治療も積極的に取り入れて始めた。比較統合医療学会において過去数回セミナーを受講し、鍼灸や漢方を診療に取り入れることを考えた。今回標準治療を行ったが効果があまり認められず副作用が顕著に出たため、減薬、投薬中止を希望した。

このような事項を考慮した結果、漢方薬、オゾン療法を行うことにした。

今回、漢方初心者獣医師が診断、治療を行う上で成果を得られた方法と、漢方薬によって効果が認められた症例について発表する。

フレンチブルドック

右前肢跛行中手骨あたり腫脹

多発性関節炎疑い

NSAIDS 効果なし

ステロイド若干の効果あり

副作用が強く出た。跛行等は変わらず

漢方薬を処方したところ

朝の強張り、跛行が消失

階段の昇降もできるようになった。

漢方薬以外は増薬していないため、漢方薬の効果と思われた。

犬の周術期における酸化ストレスの評価 Evaluation of Oxidative Stress in the Perioperative Dogs

直井康介, 山本集士, 酒井俊和, 鳥巢至道

Kosuke Naoi, Shushi Yamamoto, Toshikazu Sakai, Shidow Torisu

酪農学園大学 獣医学類

Rakuno Gakuen University school of Veterinary medicine

【背景・目的】

外科手術は、病態を改善する目的で行われるが、一方手術侵襲によってかなりの酸化ストレスが加わるものと考えられる。そこで手術前に抗酸化物質の投与を行うことで周術期の酸化ストレスを改善できないかという考え方がある。しかし、イヌにおける周術期の酸化ストレスの動向に関する報告は少なく、実際の手術症例における酸化ストレスの経時的変化を調べた報告はほとんどない。

そこで今回我々は、犬の手術侵襲による酸化ストレス、抗酸化能の変化について調査した。

【材料】

本実験では、2022年5月17日から2022年7月7日まで、酪農学園大学附属動物医療センターにて外科手術を受けた犬17症例の血清または、ヘパリン血漿を用いた。これらをDiacron International社のFREE CARRIO DUOを用い、術前、術直後、術後1、3、5、10日目の酸化ストレス度測定(d-ROM)と、抗酸化力測定(BAP)を測定し、酸化ストレスと抗酸化能のバランスを評価する指標である相対的酸化ストレス度(OSI値:d-ROM /BAP × 100)を算出した。

【結果】

d-ROMの中央値(CARR-U)は術前67.5、術直後48.3、術後1日目56.6、術後3日目78.7、術後5日目76.3、術後10日目62.1であった。BAPの中央値($\mu\text{mol/L}$)は術前2200、術直後2282、術後1日目1922、術後3日目2262、術後5日目2411、術後10日目2493であった。

OSIの中央値は術前2.9、術直後2.1、術後1日目2.8、術後3日目4.0、術後5日目3.1、術後10日目3.0であった。

【考察】

今回我々は、イヌで初めて周術期のOSIを経時的に測定した。術直後にOSIは低下しており術後3日目にかけて上昇し10日目で術前の状態まで戻っていく傾向が見られた。今回、術後にBAPの低下はほとんど認められておらず、抗酸化能は手術の影響をほとんど受けない可能性が示唆された。しかし、OSIは術直後には低下していたが、術後経過とともに上昇していた。今回のデータをもとに、今後は周術期における抗酸化療法を行うことで、術前後の酸化ストレスおよび抗酸化能にどのように影響が認められるか検討していきたいと考えている。

MetAGin™ (アメリカ人参複合乳酸菌発酵エキス末) の筋萎縮抑制効果

Suppressive effect on muscle atrophy by MetAGin™ (Complex lactic acid bacteria
fermented extract powder of American ginseng)

田坂 徹¹⁾, 鵜沼英樹¹⁾, 早川明夫¹⁾, 呉 明輝¹⁾, 呉 貴卿²⁾, 宇都義浩³⁾

Toru Tasaka¹⁾, Hideki Unuma¹⁾, Akio Hayakawa¹⁾, Akiteru Go¹⁾, Kikyo Go²⁾, Yoshihiro Uto³⁾

1) 株式会社 皇漢薬品研究所 2) 呉クリニック 3) 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部

1) Kohkan Pharmaceutical Institute Co., Ltd. 2) Dermatology Go clinic
3) Graduate School of Technology, Industrial and Social Sciences, Tokushima University

【目的】

近年、ヒトだけでなくペットの高齢化により筋肉量が減少するサルコペニアが増加している。症状の進行によって生じる運動量の低下やそれに伴うフレイルサイクルによる老化の進行が問題視されている。しかしながら、サルコペニアに対して有効な治療法は確立されていない。我々は、筋肉増強・筋萎縮抑制作用が報告されているジンセノシドを含む薬用植物のアメリカ人参に着目した。複合乳酸菌でアメリカ人参を発酵させることで、ジンセノシドの吸収率の向上と乳酸菌代謝物が腸内環境の改善及び直接生体機能活性を高めるバイオジェニックスの効果によってより効果的に筋萎縮を抑制できるのではないかと考えた。そこで、アメリカ人参を複合乳酸菌で発酵することで乳酸菌代謝物を含むMetAGin™を開発した。MetAGin™のC2C12細胞及び廃用性筋萎縮マウスに対する筋萎縮抑制効果について評価した。

【方法・結果】

C2C12筋芽細胞を筋管細胞に分化後、デキサメタゾン添加により筋萎縮を誘導した。デキサメタゾンと検体を同時添加しインキュベート後、筋管細胞の

横径計測及び筋萎縮関連遺伝子Murf-1, Atroginの発現量を定量PCRで測定した。その結果、大豆を乳酸菌発酵の培養基とした大豆乳酸菌発酵末群、アメリカ人参末群と比較してMetAGin™投与群で有意に細胞横径の太さを維持し、筋萎縮関連遺伝子の発現を抑制した。C57BL/6マウス(8週齢,オス)に重量比5%のMetAGin™を混合した飼料を試験期間中自由摂取させた。試験開始から14日後、片肢の坐骨神経を切除し筋萎縮を誘導した。神経切除の10日後に両肢の筋肉を採取し湿重量の計測及び筋繊維の断面をHE染色した。その結果、Control群(粉末飼料のみ)と比較して有意に筋重量及び筋繊維の太さを維持したことが示された。

【考察】

アメリカ人参を乳酸菌で発酵することでジンセノシドの吸収率の向上と乳酸菌の代謝物によるバイオジェニックスの効果によって、Murf-1, Atroginの発現を抑制したことで筋萎縮を抑制したと推測される。今後はMetAGin™を投与したマウスの糞便を用いた菌叢解析による腸内環境の変化や、MetAGin™を投与した競走馬の運動機能に対する増強効果を評価する予定である。

歯科における未来のpandemic対策

How to cope with futurity pandemic in dentistry

高橋浩司

Koji Takahashi

おびひろ清流歯科クリニック

Obihiro seiryu dental clinic

日本で初めて「新型コロナウイルス」のヒトへの感染が認められてから2年半を超えました。さまざまな感染症があるにもかかわらず、この感染症がすべてであるが如く、極端な根拠なき感染対策を打ち出し、社会が大きく変化していきました。

いわゆる世界ではこの感染症による「パンデミック」が起きているということです。過去の歴史からはさまざまな感染症のパンデミックにより多くの命が奪われたのは事実かもしれません。当時を生きていない自分にはそれを正しく検証することは難しいのですが、現在起きている「新型コロナウイルス」による「パンデミック」は実際肌で感じ、さまざまな情報からその実態がはっきりと見てとることができません。その上で、パンデミックという言葉への疑いを持たざるを得ません。なぜ一部の界限では「プランデミック」や「インフォデミック」などと揶揄されているのでしょうか。私は今後起こりうる「パンデミック」は感染症だけに当てはまる言葉ではなくなるとも考えるべきだという人類の警告だと感じずにはられません。

昨年大阪府知事の吉村知事が、大阪府の5500もある歯科医院でクラスターがゼロという発言しました。またYahooニュースでは、北海道の2800ある

歯科医院でもクラスター発生はゼロだと報道されたこともあります。

とはいうものの、実際に全国ではいくつかの歯科医院で患者から歯科医師やスタッフへの感染があったという報道もあるのは事実です。歯科の処置はソーシャルディスタンス「ゼロ」の超接近戦です。そもそも感染しない方が不思議な業種であり、歯科医療はこれまでさまざまな感染症、特にウイルス性肝炎やHIVなどと向き合いながら感染から徹底した対策がなされていると言われています。歯科医院でのクラスターがわずかにしか報告されないのは本当にそのせいなのでしょうか。

マスクをはじめとする感染対策の考え方や、今回「無症状感染」ワクチンの「副反応」という今までに聞いたことのない表現方法、専門家の非科学的な発言。法をも上回る同調圧力の威力。今回のこの感染症を通じ、私はこれから生きる未来に、なぜか不安を感じます。

参院選も終わり、絶望しか感じない日本ですが、今後のこの世界で起こりうる新たなパンデミックに備えるため、歯科医師としてできる本当の対策とは何か。今一度考察したいと思います。

モーズペーストにより腫瘍の局所コントロールができた犬の1例

Successful local tumor control using Mohs Paste in a dog

酒井俊和, 山本集士, 鳥巢至道

Toshikazu Sakai, Shushi Yamamoto, Shidow Torisu

酪農学園大学 獣医学類

Rakuno Gakuen University School of Veterinary Medicine

【はじめに】

モーズペーストとは、1941年Mohsにより開発された腫瘍や壊死組織を化学的に固定する軟膏製剤のことである。組織を固定させ、それを切除しさらに製剤を塗布するということを繰り返すことで腫瘍の縮小や浸出液の軽減させることなどを目的に使用される。人、動物ともに使用報告は増えてきているものの、情報としてはまだまだ十分とは言えない。今回我々は、イヌの耳の扁平上皮癌に対して、モーズペーストを使用しそこで若干の治験を得たので報告する。

【症例】

犬、バセッドハウンド、11歳、去勢雄、体重36kg。耳根部の腫瘍を主訴に来院した。腫瘍は扁平上皮癌と診断され、2回の手術、その後の放射線、抗がん剤治療などを行うが再発を繰り返し、潰瘍から浸出液とにおいが重度になり動物と家族のQOLは低下していった。そこでモーズペーストを使用することとした。短冊状に割いたガーゼを製剤に浸漬し、患部に塗布した。処置後、潰瘍部分が乾燥し、状況

は改善していった。乾燥組織を削りさらにモーズペーストを塗布したところ、腫瘍は徐々に減少していったが、処置を繰り返していった際に、耳介への血流が途絶え耳介全体的に壊死が生じた。

【考察】

塩化亜鉛を主成分とし、蛋白を変性・収斂させる作用を有するものである。手術が困難な状況で浸出液やにおいをコントロールする目的ではとても有用であることが明らかになった。また短冊状のガーゼでは立体的な窪みでも塗布が可能となった。一方、耳根部のような薄い組織では、固定の深達度が深すぎると血流障害から組織が虚血壊死してしまうため、固定する部位や深達度には注意が必要であると考えられた。モーズペーストの深達度については固定時間と相関することが知られている。本症例では腫瘍が減量されていった際に、その頻度や時間をさらに多くしてしまったことが血流障害を起こした原因と考えられた。症例の状態によって、緩和ケアならばその目的を達成した時点で過度に行いすぎないことも重要だと考えられた。

手術創ドレッシングにおける竹繊維ガーゼの有用性

Usefulness of Bamboo Fiber Gauze as Surgical Wound Dressing in Veterinary Medicine

山本集士，酒井俊和，鳥巢至道

Shushi Yamamoto, Toshikazu Sakai, Shidow Torisu

酪農学園大学 獣医学類 伴侶動物外科学ユニット

Laboratory of Companion Animal Surgery, Department of Veterinary Medicine, Rakuno Gakuen University

手術創の管理において、創傷被覆材（ドレッシング材）は創部の保護だけでなく、感染や汚染物といった外的因子から守り、閉鎖と湿潤環境を保つことで、治癒促進する重要な役割を担っている。ドレッシング材には動物性や植物性、合成物など用途により幅広く存在しており、その中でも、竹繊維の特性（吸水性、透湿性、抗菌性など）に注目したガーゼ製品が見直されている。そこで今回、酪農学園大学附属動物医療センター腫瘍科/軟部外科にて手術を実施した症例を対象に、手術創のドレッシング材として竹繊維ガーゼを使用したところ、若干の知見が得られたので報告する。

手術創の被覆方法としては、手術終了後から竹繊維ガーゼ（TAKEFU® GAUZE, (株)ナファ生活研究所）を術創部にあてがい、サージカルテープや自着性伸縮包帯で固定した。術後は毎日ガーゼを交換して、術創部ならびにガーゼの状態（滲出液や創部とガーゼの固着具合など）を確認した。

今回試行した症例の術創部は、腹部や四肢が中心であった。それらの中で、術創部からの滲出液が多くなった例や、動きが多く血液排出が認められた例において、従来のガーゼと比べて竹繊維ガーゼの吸水性が高く、過度な湿潤状態を防ぐことが可能であった。さらに、適度な湿潤状態も保っていたことから、

乾燥した滲出液や血液によりガーゼが術創部に張り付いてしまうといったこともみられなかった。

現在、手術創のドレッシング材としては、人工化合物を中心に様々な素材の製品が用いられている。また、人と異なり獣医療では皮膚や被毛、術創部の問題から、ガーゼをドレッシング材として用いることも多い。一方、近年の人医療では、ガーゼは術後のドレッシング材として推奨されていない。その理由として、吸収した滲出液が乾燥して非湿潤環境になることや、それに伴い張り付いたガーゼを除去する際の疼痛が生じやすい点が挙げられている。今回用いた竹繊維ガーゼではそういった術創環境になりにくく、ガーゼ除去・交換時の疼痛予防にもつながったと考えられた。以上のことから、獣医療において、滲出液や血液排出が多い術創部には竹繊維ガーゼが有用であることが示唆された。

今後の検討課題としては、術創部へのガーゼの密着維持・貼付け方法や、感染創に対する効果の検討が挙げられる。現在は、ATPふき取り検査（A3法）を用いて、従来のガーゼと竹繊維ガーゼの術創部の感染リスクの評価を比較検討しているところである。

前述した内容を、当日は具体的な症例を例示して発表する予定である。

一般財団法人比較統合医療学会第65回学術大会 協賛企業一覧

株式会社 blu owl
株式会社 TAMAX
アニコム損害保険株式会社
東栄新薬株式会社
イスクラ産業株式会社
株式会社 K9 ナチュラルジャパン
株式会社 プロ・アクティブ
有限会社 ペットパティースジャパン
株式会社 玄米酵素
株式会社 MJ カンパニー
ノース・ウォーター株式会社
ジージーピー株式会社
株式会社 日本生物製剤
六基食品株式会社
株式会社 皇漢薬品研究所
株式会社 ファームプレス
株式会社 NST
飛鳥メディカル株式会社
HYDRECH 株式会社
愛知電子工業株式会社
スクエナー ジャパン
株式会社 アトムベッツメディカル
ケミテラス株式会社
クオリティケア有限会社
株式会社 パラディウム
(順不同)

一般財団法人 比較統合医療学会
第 65 回学術大会 抄録

令和 4 年 8 月 22 日 印刷

令和 4 年 8 月 27 日 発行



一般社団法人 次世代吸収研究会

老化研究は“次世代”の領域へ。

次世代吸収研究会が扱うのは、NMN や PDS といった最先端のテクノロジー。
医薬品や化粧品など、さまざまな製品に応用することで、皆さまの健康や美しさに貢献します。

〒531-0071

大阪市北区中津1-6-29-912

info@jisedaikyusyu.or.jp

犬猫用の免疫サプリメント 無料サンプルのご案内

再発を
繰り返す マラセチア

犬猫用免疫サプリメント
「キングアガリクス製品」

皮膚糸状菌症の犬・猫にお試し下さい

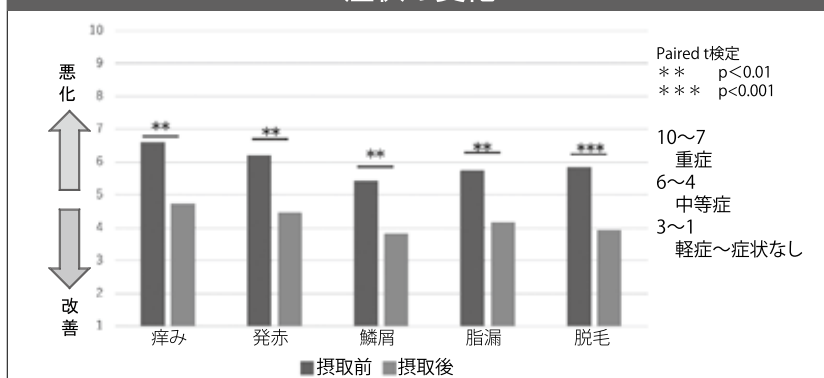
こんにちは。露地栽培アガリクス＝キングアガリクスを扱っている東栄新薬(株)の元井章智と申します。
今回は『キングアガリクス製品』の臨床試験データと無料サンプル提供をご案内させていただきます。

獣医師の満足度

マラセチア性皮膚炎 (n=20)

85%

症状の変化



マラセチア皮膚炎・外耳炎の症状は摂取前後で、痒み、発赤、鱗屑（耳垢）、脂漏（臭い）、脱毛など全ての項目において、有意な改善が確認されました。皮膚糸状菌症の症状は、鱗屑に関しては改善傾向、痒み、発赤、脱毛に関しては有意な改善が確認されました。

■対象：真菌症に罹患している体重5～6kgの犬猫56例（経口ステロイド薬非投与群） ■摂取量：露地栽培アガリクス300mg 1日1粒 ■摂取期間：1か月間（2021年6～7月ペットピアにて調査） n=20（イヌ14、ネコ6）

エヌケーアッププラスアルファ

医療機関専用サプリメント『NKUP+α』1袋と学術データを無料で差し上げます

無料サンプル申込書

2022年9月30日(金)まで

☐ 無料臨床サンプル希望		☐ FAX 不要	
医療機関名		FAX 番号	
ご住所	〒		
ご担当者様		電話番号	
Eメール			

比較2208

製造元：東栄新薬株式会社／販売元：ケーエーナチュラルフーズ 担当：岩村・北原
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 1-11-23 TEL：0422-72-8120（9：30～18：00 日祝休）

↓ FAX 0422-47-8155 (24 時間受付) ↓

世紀を超える、太古の生命力ー

紅豆杉

こうとうすぎ



紅豆杉エキス粒

定価：81,000円(税抜)



紅豆杉150g

定価：24,000円(税抜)



紅豆杉

定価：9,600円(税抜)

株式会社紅豆杉代理店

六基食品株式会社

〒大阪府中央区瓦町4-7-6 船場竹伊ビル4F

TEL 06-6201-2336 FAX 06-4707-4003

web <http://rocky-foods.co.jp>

mail info@rocky-foods.co.jp

web



mail



私たちは「ペットと飼い主が少しでも長く楽しい時を過ごせるために」

をコンセプトに、ペットの為の中医学の普及・啓蒙活動を行っています。

もう一つの視点“中医学”を取り入れた診療を行いませんか？ 会員募集中です！

イスクラ産業は、現在 418 病院* が所属する「日本ペット中医学研究会」の先生方とともに、ペットの診療に中医学を積極的に役立てるため、中医学講座の開催や飼い主様向けセミナーの開催などを行っています。

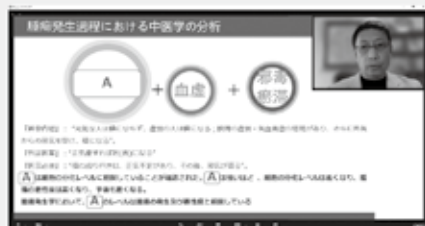
* 2022 年 7/1 現在

中医学のバイオニアであるイスクラ産業が販売する『QUANPOW』シリーズは、中医学（中国の伝統医学）の理論を基に研究開発されたペット（犬・猫）専用のヘルスケアサプリメントです。



日本ペット中医学研究会に入会いただきますと、研究会主催講座でペットのための中医学を学ぶことができます。弊社製品は研究会会員病院専売品です。

2022 年度研究会主催基礎講座では中医学基礎理論について、書籍「ペット基礎中医学」に基づいた 10 回シリーズ（各回 2 時間）の録画配信限定講座として、中醫師の韓 笑先生に講演していただいています。（日本語での講演です）



またペット中医学臨床応用講座（年間 5 回開催）として、楊 達 中醫師による基調講演「中医学臨床方法論（内分泌疾患・皮膚疾患・消化器疾患・自己免疫疾患）」と症例検討、症例発表大会、中国から中獣医の陳武先生を招聘した特別講座を行なう予定です。（リアルタイム配信もします。）

基礎講座・臨床応用講座、どちらも研究会会員限定で、会員は無料で受講できます。録画した過去の講座も見ることができます。

イスクラ産業株式会社 ペット事業部 電話：03-3281-3402 メール：pet@iskra.co.jp 担当：篠原・木村

健康で明るい暮らしをめざして..

OZONE Therapy



濃度計付オゾン発生器

OZONE-V

LIGHT Therapy



キセノン光発光装置

Ultra Photonic Balancer



CCLT 対応装置

Crystal Color Light Harmonizer II

TAMAX Inc.

株式会社 **TAMAX**

〒464-0032 名古屋市千種区猫洞通 3-7-67

TEL:052-784-5678 FAX:052-784-5679 <http://www.tamax.info>



代替医療水の グランドウォーターPro 大自然の水を 家庭の蛇口から！

製造・販売元

ノース・ウォーター 株式会社

〒042-0932

北海道函館市湯川町1-1-9

TEL 0138-57-0427

FAX 050-3588-1198



カロリー制限のエビデンスも学べる！

ツラくないプチ断食でからだをリセット！

体重管理にやってみたいこと第1位に挙がるほど、関心の高い断食やファスティング。
「興味はあるけどやり方がわからない」「途中で挫折しそう」と、まだチャレンジしたことが
ない方も多いのではないのでしょうか？

そんな方におすすめなのが、玄米発酵食品
を使った1食置き換えプチ断食（ファス
ティング）！「空腹が気にならない！」「楽
に過ごせる！」と20年以上、多くの方が
実践しています。

1 食置き換え プチ断食の方法

1. 朝・昼・夕のいずれか1食を、**玄米発酵食品4～6袋**だけで済ませます。
2. 普段より水分を多めに取るようにしましょう。
（水、お茶、豆乳、野菜ジュース など）

玄米酵素
ハイ・ゲンキ

詳しい方法
はこちら▶



機能に関するエビデンスが豊富。
35 本以上の学術論文あり。（学術名 FBRA）



すぐに試せる無料サンプルにお申込ください



お申込み時、玄米酵素を
知ったきっかけ欄に
【比較統合医療学会】と
入力ください。

ノウハウ解説本
無料進呈中



玄米発酵食品
サンプル4袋

一食置き換え
プチ断食1回分

おかげさまで50年
食改善で真の健康をお届けする



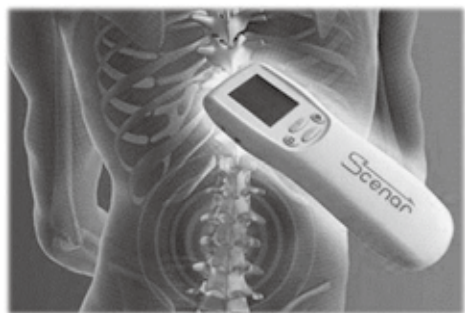
札幌市北区北12条西1丁目1-1
第1酵素ビル
TEL：0120-503-817

スクエナー

SCENAR

Self Controlled Energo Neuro Adaptive Regulator

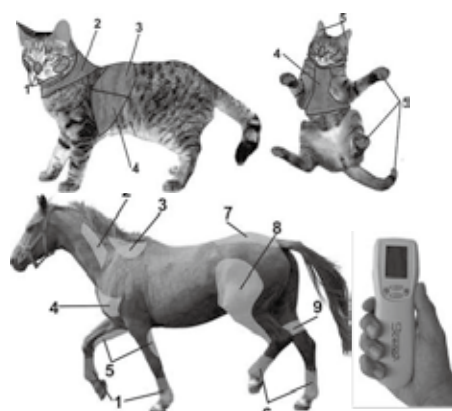
Binseiナチュラルヒーリング
スクエナージャパン
[http:// binsei.net](http://binsei.net)
binsei.office@gmail.com
Mob:050 3759 7268, 090 6481 8740



スクエナープロ
痛や機能障害に



スクエナーバーテブラ
自動で全人的治療



動物にも

スクエナーは皮膚の神経受容体から神経に介入し脳の誤作動を修正する反射治療器です。

痛みや炎症や機能不全に使われています 薬を使えない宇宙医療だから使われています

ロシアを中心に欧米諸国の医療機関（神経科・外科・婦人科・耳鼻科・小児科・物理治療科・救急医療科・獣医学など30以上の専門分野）の医師をはじめ多くのヘルスケア・プロフェッショナルに利用されています。

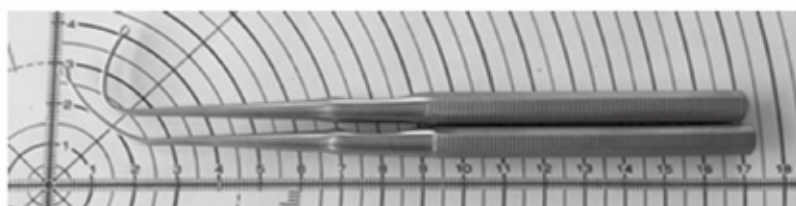
イーグルフックオーバル

2本セット 23,000円 (税別)
(税込 25,300円)

送料
別途

イーグルフックのご紹介

- ・フック先端が鈍で血管損傷を与える危険性が低く
PDA血管確保などに安全に使用できる。
- ・乳び胸管結紮術、肺葉切除、肝葉切除、
胆嚢頸部の確保など
血管や組織を縫合系で確保して
結紮する時に使用できる。



容易に好みの方向に曲げられます。

【注意点】

同方向に3回以上曲げたり伸ばしたりを繰り返すと
金属疲労を起こし折れる可能性があります。

特に反対方向へ曲げ伸ばしを繰り返すと
金属に対し強い疲労となります。



株式会社

アトム ベッツ メディカル

超音波メス・半導体レーザーなど手術機器の事ならお気軽に

〒602-8366 京都市上京区行衛町452-3
TEL:075-463-7139 FAX:075-463-6966
<https://www.atomvetme.com>



UNIPLATは国連の提唱するSDGsを推進する研究者/
起業家を支援し、世界中からのサポーターとつなげる
オンラインプラットフォーム

UNIPLATの特徴

UNIPLATは各メンバーにより多くのメリットを届けるため
に、様々な機能を開発し続けています。

✓ My Lab (マイ・ラボ)

プロフィールやアップロードされたコンテンツ、及びク
レジットレーティングなどの情報を、様々な支援者が閲
覧することができます。研究者及び起業家のワンストップ
紹介コーナーです。

✓ 暗号資産で寄付できる世界初の仕組み

コンテンツを公開し、アピールすることにより、研究者
及び起業家が所在する地域の経済状況に関わらず、公
公平公正な環境で世界各国のサポーターからイーサリア
ムで寄付を得ることができます。また、独自にオフライ
ンによる資金調達も可能です。

✓ Credit Rating (クレジットレーティング)

研究者及び起業家のプラットフォームにおけるアクティ
ブティを基礎情報として、AIを利用し、様々な観点か
らの客観的評価を行い、各人の評価を、クレジットスコ
アで表示する機能です。

✓ Pre IP 証明書

PreIPとは「Pre (Registered) Intellectual Property」
の略で、UNIPLATが独自に開発した造語です。研究者
及び起業家が、プラットフォーム内に公開したコンテ
ンツ (動画、ドキュメント、ストリーミングアーカイブ) を
Pre-IPとして登録すると、そのコンテンツについて、ブ
ロックチェーンのスマートコントラクト技術により、
UNIPLATにて、第三者認証 (作成日時、作成者、作成内
容など) を行います。それにより、研究者及び起業家は
安心して自己のIPを公開することができます。

UNIPLATで何ができるか

メンバーシップ毎に異なるサービス内容:

- 1 Researcher/entrepreneur (研究者及び起業家)
研究者及び起業家のメンバーは、動画とドキュメント
のアップロード、また、ライブストリーミングの配信を
することができ、アップロードしたコンテンツより、サ
ポーターメンバーからイーサリアムで寄付を受ける
ことができます。
- 2 Supporter (サポーター)
サポーターメンバーは、研究者及び起業家がアップ
ロードしたコンテンツを閲覧したり、寄付などの支援
をすることができます。
- 3 Facilitators (研究機関、大学、企業)
ファシリテーターメンバーは、法人アカウントにより、
所属する研究者のコンテンツを配信したりすること
ができます。

UNIPLATの使命

世界中の研究者及び起業家が、経済状況及び境遇に左
右されない、公平公正な研究及び事業の環境の実現を
目指します。

UNIPLATのビジネスパートナー

2022年7月現在



Group of Nations
<https://groupofnations.com/>

EUTECH

European Technology Chamber
(EUTECH)
<https://www.eutech.org/>

Chemiteras, inc.



← UNIPLATへの
アクセスはこちらから



Medicellでペットと飼い主様のQOLを高めたい

- ◆ヒトで全都道府県2200台の出荷台数
- ◆ヒトでもトップアスリートから競走馬までの実績

『押す』から『引く』の新提案

優しい吸引による筋膜ケアで『介護ゼロ』を目指します！

予防
ケア

介護
ケア

リハ
ビリ

無料デモンストレーション
体験・資料等…随時受付中

お問い合わせはコチラ



製造販売元 株式会社 MJカンパニー

本社：〒700-0953 岡山県岡山市南区西市308番6

TEL：086-242-3555 FAX：086-805-0222

品川オフィス：〒108-0075 東京都港区港南2-16-1 品川East One Tower 7F

北海道代理店：不二光学器械株式会社

〒001-0020 北海道札幌市北区北二十条西4丁目2-40

TEL：011-726-2515 FAX：011-716-5804

愛犬の健康と元気のために はじめよう、生食ダイエット

オーストラリア産の
新鮮な生肉を使用
バーフダイエット™



ビッグドックシリーズ



小型犬にも与えやすい
ペットパティース小粒サイズ



フード、トリーツとしても
手軽さが人気
フリーズドライ生食



生食ドッグフード専門店
有限会社ペット・パティース・ジャパン
〒231-0837 神奈川県横浜市中区滝之上143-6
www.petpatties.com

お電話でのお問い合わせ・ご注文

0120-551-451

9:30AM~5:30PM(土、日、祝日を除く)

Quality Care

クオリティケア株式会社

たいせつなことを
ご家庭(お茶の間)まで
'伝え広げるお手伝い'

代表取締役 **瀧澤 克弘**
Katsuhiro Takizawa

T 070-0062

旭川市曙2条3丁目1-9

TEL: 0166-27-6300

FAX: 0120-300-522

MOBILE: 090-1524-1340

Mail: qualitycare1@outlook.jp

URL: <https://qualitycare1.co.jp/main>



ヴェルキュア
Vercure®

特長

- ・粒子の細かい微粉末状のため、消化吸収に優れています。
- ・「乾式気流粉碎製法」の使用により、野菜の栄養素や風味の損失を最小限に抑えています。
- ・生野菜が約 10 分の 1 となる粉末になっています。(Vercure 3g ≒ 生野菜 約 30g)

野菜をまるごと使用することで
自然の栄養を摂ることができる
動物用栄養補助食品です。



株式会社 NST

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-21-14 パークサイドガクヤビル

TEL : 048-829-9640 FAX : 048-829-9649 URL : <https://vercure.co.jp/>



おかげさまで、飛鳥メディカルは20周年を迎えることができました。
これもひとえに皆様のご支援、ご愛顧の賜物と心から感謝いたしております。
これからも社員一同、より一層の努力を続け皆様のご愛顧にお応えしていく所存でございます。
今後とも、ご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

飛鳥メディカル株式会社 代表取締役 中村 誠司

Intelligence Diode Laser D-Lase V20

シール切断など多くのメニューが
プログラム化された未来機能搭載!



レーザー本体 + 本体付属品
定価: 3,980,000円(税抜)

【主な特徴】

- ・確実なオペレーションを実現するプリセット機構搭載
- ・照射プログラムのカスタマイズが可能
- ・温度フィードバック制御でらくらくサージア
- ・操作性の高いグラフィックインターフェース

\\ 特別価格 /

Laser Therapy Solution H1

165種類の豊富なメニューが搭載された
3波長レーザー治療器!



レーザー本体 + 本体付属品
定価: 3,680,000円(税抜)

【主な特徴】

- ・650nm, 810nm, 915nmの3波長と高出力によって効果的な治療を短時間で行うことができます。
- ・大動物からエキゾチック動物まで様々な動物に対応しています。
- ・ポータブル&コンパクト、本体重量約2.0kgと軽量。

\\ 特別価格 /



レーザー医療の可能性を世界に

飛鳥メディカル株式会社

T610-0332

京都府京田辺市興戸地蔵谷1番地

同志社大学連携型起業家育成施設2階

TEL: 0774-65-2233 HP: www.asuka-med.com



原料から製品化まで、あらゆるニーズに迅速に対応

研究開発・企画・デザイン・許認可の手続きまで、各分野の専門家が適格にお応えします。

機能的表示食品

化粧品、医薬部外品、医薬品

○栄養補助食品 ○野草・ハーブ ○自然食品 ○ドリンク

ペット用サプリメント 受託可能

世界に広がるネットワーク

独自のネットワークで世界でも注目される素材を直輸入

マカ



ペルー国立
ラ・モリーナ農科大学
校章

アメリカ人蔘



米国ウイズコンシン
ジンセン協会
認証マーク

ムクナ



タイ国立
カセサート大学
認証マーク

日本で皇漢薬品研究所だけが認可された信頼の認定マーク



日健栄協認定工場



GMP 取得 自社工場製造

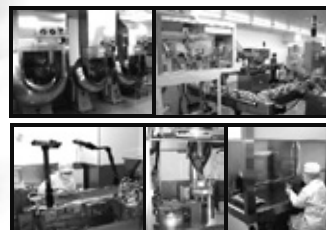
赤羽工場

医薬品製造業許可

第二種医薬品製造販売業許可

化粧品製造業許可

医薬部外品製造業許可、他



株式会社皇漢薬品研究所

本社/東京都千代田区東神田2-1-3 (〒101-0031)

TEL.03(3861)3843 代

http://www.kohkan.co.jp

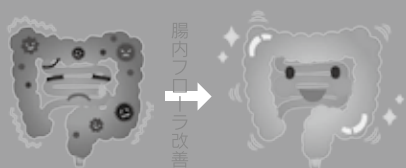


薬だけに頼らない

BioDesign シリーズ

皮膚

薬に頼らずに
アレルギーを改善



ケストース



ラクトバチルス
・パラカゼイ



Bio スキン



Bio マウス

食事

皮膚・腎臓などに
配慮した療法食



- ・皮膚ケア タラ&大麦
- ・腎&心ケア
- ・ベーシックケア
- ・低糖質ケア
- ・低脂肪ケア

低温低圧製法・食材から栄養を得よう設計の療法食

認知機能



プラズマローゲンなど、注目の成分を配合した
認知機能を補うサプリメント



リブレイン

シニア犬の健康的な
毎日をサポート

臨床モニター募集

生体酵素

酵素は摂るから体内で作る時代へ



ライフリキッド

生体酵素水

臨床モニター募集

各商品資料のご請求
臨床協力モニターお申込みは
こちらより



販売者
株式会社プロ・アクティブ BioDesign 事業部
東京都武蔵野市吉祥寺南町 1-10-1 東ビル 5F
TEL 0422-76-7517



一般財団法人 比較統合医療学会

(事務局) 〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-9-19 TEL: 03-5915-5308 FAX: 03-5915-5319

E-mail: info@scim.jp <http://scimha-japan.org/>